

# 自己点検・評価システム検討ワーキング

## 答 申

東京家政学院大学

令和3年11月11日

### 目 次

資料1	東京家政学院大学 内部質保証に関する基本方針（案）	p. 1
資料2	令和3年度 自己点検・評価（全学レベル）実施要領（案）	p. 3
資料2別紙1	自己点検・評価実施体系図（案）	p. 6
資料2別紙2	評価機構の評価基準及び実施主体一覧（案）	p. 7
資料2別紙3	自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）	p. 11
資料3	教育の質保証チェックシート（案）	p. 63
資料4	2021年度 シラバス点検・評価シート（案）	p. 83
資料5	2021年度 個人活動報告書（案）	p. 85
資料6	東京家政学院大学 自己点検・評価委員会規程の一部改正案（新旧対照表）	p. 88
資料7	東京家政学院大学 外部評価委員会規程（案）	p. 93
資料8	日本高等教育評価機構エビデンス集 担当一覧	p. 95

# ○東京家政学院大学 内部質保証に関する基本方針（案）

（2021年〇月〇日制定）

東京家政学院大学は、本学が掲げる理念・目的、教育目標及び各種方針の実現に向けて、恒常的に改善・改革を促進するため、次の通り内部質保証の方針（基本的な考え方）を定めます。

## 1 方針

### （1）教職員一人一人が自己点検・評価できるシステムの確立

大学は教職員一人一人ですべてできています。教職員それぞれが自分の業務を点検して評価し、そして、次につなげることが大学の質を保証することの第一歩だと考えます。従って、教職員一人一人が自己点検・評価に関わることで、自己点検・評価のシステムを全教職員に見えることが必要です。本学では、次の全学・組織・個人の3つの階層（レベル）ごとに自己点検・評価を実施することで、教職員一人一人が自己点検・評価に関わるシステムを確立します。

- ①全学レベル：学長が中心となって作成する「事業計画書（中期経営計画に基づいた中期目標・計画を含む）」及び公益財団法人日本高等教育評価機構における「評価基準」の2つを起点とした自己点検・評価
- ②組織レベル：学部・学科、研究科の教育プログラムにおける三つのポリシーを起点とした自己点検・評価
- ③個人レベル：各授業科目の「授業計画（シラバス）」及び教員が作成する「個人活動報告書」の2つを起点とした自己点検・評価

### （2）全学マネジメント下での3つの階層（レベル）の自己点検・評価の実施

全学マネジメントとは、学長の直接的・間接的コントロール下にあることを指します。全学マネジメントを行うのは、学長の下にある教育企画室（副学長、学長補佐を含む）及び自己点検・評価委員会です。全学マネジメント下で実施することで、3つの階層の自己点検・評価結果を連動させることが可能になり、同時並行で各階層の質を上げることにつながります。又、全学マネジメント下で実施することで、自己点検・評価の見直しや機能強化も時間をかけずに対応できるため、業務の効率化につながります。

### （3）外部評価と経営の視点の導入

内部質保証の実効性及び評価の客観性を高めるため、外部評価委員からの提言や各種（IR、授業評価アンケート、卒業生アンケートなど）のデータから得られた結果に基づいて、自己点検・評価の検証を行います。又、大学内部の質を継続的に保証していくためには、経営の視点も大切です。従って、中期経営計画に基づいた当年度の「事業計画書」及び予算編成を連動させることで、決められた予算内での大学の改善・改革を着実に実施します。

#### (4) 学生の成長を意識した自己点検・評価

学生の学修成果の状況とその水準を確認すると共に、学修環境や学生支援の状況についても点検・評価の対象にするなど、学生の成長を支援できる体制を整えます。そして、学生が卒業時に自分の成長が実感できるような教育研究の現場にします。

#### (5) 教職員の能力の保証と開発

教育研究活動を担う教員と、教育支援及び学生の学修支援業務に当たる職員が協力することで、大学組織としての質を保証すると共に、一人一人の教職員に対して点検・評価を行うことで能力の保証と育成、そして、新たな能力開発を行います。

## 2 組織体制

### (1) 自己点検・評価委員会

内部質保証の方針、全学的な自己点検・評価の実施を推進し、自己点検・評価報告書の作成及び関係者へのヒアリングによる検証を行います。又、自己点検・評価報告書及び検証結果の講評を、毎年度学内外に公表します。

### (2) 外部評価委員会

内部質保証の有効性及び自己点検・評価活動の客観性・公平性などの観点から、基本方針に基づき、全学的な自己点検・評価を実施します。

### (3) 学部・研究科、センター及び事務局等

自己点検・評価委員会の定める方針、計画に則り、自己点検・評価を実施し、当年度の組織ごとの『自己点検・評価報告書』を作成します。事務局（各室）は、教育企画室（IR）と連携し、自己点検・評価に必要な各種データの収集・作成を行います。

### (4) 教育企画室（IR）

自己点検・評価委員会の事務を担当し、全学的な自己点検・評価における業務全般を担当します。又、自己点検・評価に必要なデータの作成を推進し、関係部局へ協力要請・調整を行います。

以上

## 令和3年度 自己点検・評価（全学レベル）実施要領（案）

### I. 趣旨

教育研究活動の一層の充実、教育研究水準の向上を図り、社会的貢献等に資するため、積極的かつ主体的に大学全般の質保証に係る全学レベルの自己点検・評価を行い、その結果を大学運営等に活用、反映するとともに公表する。

### II. 自己点検・評価の実施

#### (1) 実施体制【別紙1：体系図】

- ①自己点検・評価委員会は、本学における自己点検・評価を円滑に実施するための方策等について策定し、当該年度の活動状況全般について、自己点検・評価を実施・統括及び公表する。
- ②学部・研究科・センター・事務系部署等（以下「各部局」という。）は、当該年度の各部局の自己点検・評価を行い、恒常的に改善活動を行う。
- ③自己点検・評価の検証及び提言は、外部評価委員会において行う。

#### (2) 全学レベルの自己点検・評価の点検・評価項目及び実施主体

【別紙2：評価機構の評価基準および実施主体一覧】

自己点検・評価委員会は、公益財団法人日本高等教育評価機構（以下「評価機構」という。）における「評価基準」及び本学の中期計画等に沿った本学独自の項目（主要課題）を総合して、毎年度の自己点検・評価項目（以下「点検項目」という。）を決定し自己点検・評価を実施する。

#### (3) 自己点検・評価の流れ

- ①本学で行う自己点検・評価は、公益財団法人日本高等教育評価機構における「評価基準」に準拠し、本学の中期計画等に沿って大学独自の項目を追加して実施する。なお、必要に応じて、学長が定める点検項目を別途追加することができる。
- ②学部、研究科、附属図書館、各種センター等及び事務系部署（以下「各部局」という。）の長は、評価基準ごとに定められた「点検項目」について自己点検・評価を行い、所定の自己点検・評価報告書（チェックシート）（以下「チェックシート」という。）を作成のうえ、エビデンス（データ・資料）（以下「エビデンス」という。）と一緒に提出する。
- ③自己点検・評価委員会は、各部局から提出されたチェックシート及びエビデンスの点検・調整及び取りまとめを行う。
- ④外部評価委員会は、自己点検・評価委員会が取りまとめたチェックシート及びエビデンスを基に、自己点検・評価の検証及び提言を行う。検証に際しては、必要に応じてヒアリングを行うことができる。
- ⑤自己点検・評価委員会は、外部評価委員会からの検証結果等を確認した後、全学的課題や各部局等の個別課題を取りまとめ、学長に報告する。また、各部局に個別課題を伝達する。

- ⑥個別課題の改善を要する各部局は、翌年度以降の年度計画に個別課題を反映し計画的な改善を行う。

#### (4)チェックシートの作成方法【別紙3：自己点検・評価報告書（チェックシート）】

- ①各部局の長は、担当する点検項目のエビデンスを準備（作成）する。
- ②担当する点検項目について、当該組織の状況を自己点検・評価し、「現状」欄に以下の「A」、「B」、「C」、「D」の自己評価<判定>を記入する。
- また、「改善」欄については、前年度の自己点検・評価の結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）が付されている場合、当該年度の改善に関する取組について、以下の「A」、「B」、「C」、「D」の自己評価<判定>を記入する。
- 【自己点検・評価基準】
- 「A」：満たしている／前年度の改善・向上方策：全て達成済
- 「B」：満たしている／前年度の改善・向上方策：計画進行中
- 「C」：満たしている／前年度の改善・向上方策：計画検討中
- 「D」：満たしていない／認証評価で「不適合」若しくは「改善点」として指摘される可能性が高い
- ③各部局の長は、点検項目について、当該組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、エビデンス（根拠番号を付記）を用いて「点検項目ごと」に具体的に説明する。
- ④各部局の長は、「根拠資料」欄に、自己点検時に用いたエビデンスを記載する。その際、データ・資料ごとに、根拠番号を付番する。
- ⑤各部局の長は、前年度の自己点検・評価の結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応に関する伸長・改善に向けた取組について、「伸長・改善の進捗状況」欄に、第三者が理解できるようエビデンスを用いて具体的に説明する。また、今年度も引き続き課題事項と伸長・改善方策がある場合は、「今年度の伸長・改善計画」欄に、その内容を具体的に説明する。
- ⑥各部局の長は、作成したチェックシートを、自己点検・評価委員長宛として事務局に提出する。

#### (5)外部評価委員会における検証作業

- ①外部評価委員会は、自己点検・評価委員会が取りまとめたチェックシート及びエビデンスによって検証作業を行う。
- ②外部評価委員会は、必要に応じて、点検・評価項目担当者等にヒアリングを行うことができる。
- ③外部評価委員会は、チェックシートの「検証結果」欄に、総評、長所・特色・課題事項を具体的に説明する。
- ④外部評価委員長は、検証結果を記入したチェックシート及び提言事項をまとめた報告書を、自己点検・評価委員長宛として事務局に提出する。

## (6) 評価結果の報告

- ①自己点検・評価委員会は、検証結果が反映されたチェックシートの内容等を確認する。そして、必要に応じて調整し、取りまとめを行い、自己点検・評価委員長に報告する。
- ②自己点検・評価委員長は、評価結果を学長に報告する。
- ③学長は、評価結果を確認し承認する。
- ④自己点検・評価委員会は、学長の承認を受けて、自己点検・評価の検証結果が反映されたチェックシートをもって、速やかに各部局の長に報告する（学長差出の文書を添える）。
- ⑤各部局の長は、評価結果に不服がある場合には、任意の書面にて、学長に申し出ることができる。

## (7) 評価結果の公表

自己点検・評価委員会は、評価結果を「東京家政学院大学自己点検・評価報告書」等にまとめ、適宜な方法により公表する。

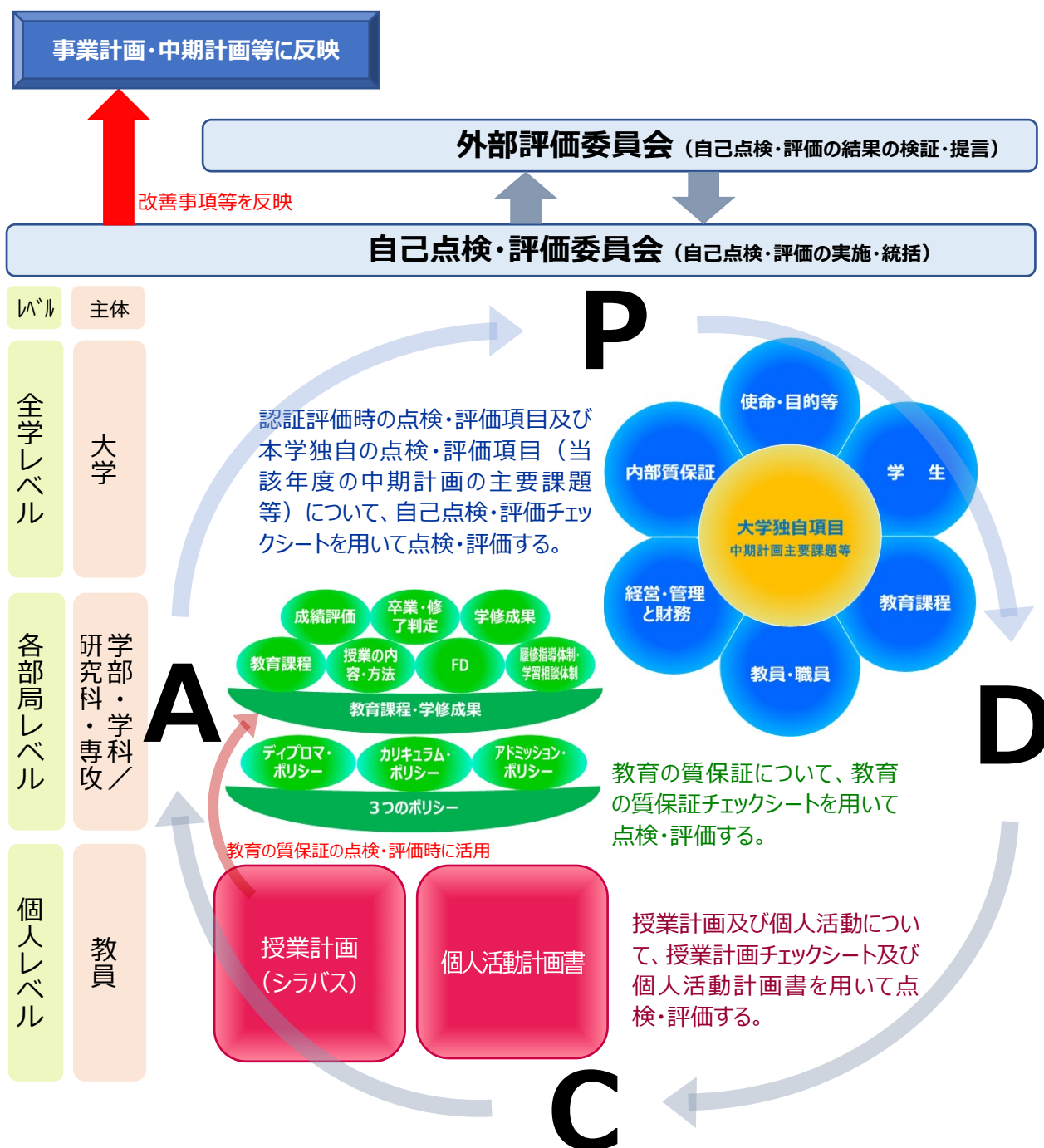
## (8) 評価結果の活用・反映

- ①評価結果は、教育・研究活動等の改善のための資料とする。
- ②学長は、評価結果に基づき、必要に応じて優れた取組並び改善を要する事項に対して必要な措置を講ずる。

## (9) 標準的な実施スケジュール（目安）

- ①自己点検・評価委員会による自己点検・評価項目の決定：11月中
- ②自己点検・評価の実施依頼：11月中旬～12月上旬
- ③自己点検・評価に必要なデータ・資料の収集・分析：12月上旬～翌年1月上旬
- ④自己点検・評価の実施（チェックシート作成⇒提出）：1月中旬～2月上旬
- ⑤外部評価の実施依頼：2月上旬～中旬
- ⑥外部評価の実施（ヒアリング、チェックシート作成⇒提出）：2月中旬～2月下旬
- ⑦自己点検・評価委員会による取りまとめ：2月下旬～3月上旬
- ⑧自己点検・評価報告書を学長へ提出（報告）：3月上旬
- ⑨学長確認⇒承認：3月上旬
- ⑩自己点検・評価委員から各部局へ報告（学長差出文書）：3月上旬
- ⑪改善事項等を次年度事業計画書へ反映：3月上旬～中旬（3月中旬の理事会にかけるため）

### 自己点検・評価実施体系図（案）



評価機構の評価基準及び実施主体一覧(案) ※赤字の項目は第3クール計画段階以降に追加・修正された箇所

1	使命・目的等	1-1	使命・目的及び教育目的の設定	111	使命・目的及び教育目的を具体的に明文化している。	①意味・内容の具体性と明確性	・使命・目的、教育目的などを示す資料 ・個性・特色に関する大学の自己認識を示す資料(関係部分) ・使命・目的、教育的目的の改定があれば、その改定の理由と経緯を示す資料	飯谷副学長	飯谷副学長	教育企画室
				112	使命・目的及び教育目的を簡潔に文章化している。	②簡潔な文章		飯谷副学長	飯谷副学長	教育企画室
				113	使命・目的及び教育目的に大学の個性・特色を反映し、明示しているか。	③個性・特色の明示		飯谷副学長	飯谷副学長	教育企画室
				114	社会情勢などに対応し、必要に応じて使命・目的及び教育目的の見直しなどを行っているか。	④変化への対応		飯谷副学長	飯谷副学長	教育企画室
				115	使命・目的及び教育目的が、掲載する媒体により異なる表現となっている場合、その趣旨が一貫したものとなっているか。	上記①～④の視点		飯谷副学長	飯谷副学長	教育企画室
	1-2	使命・目的及び教育目的の反映	121	使命・目的及び教育目的の策定などに役員、教職員が関与・参画しているか。	①役員、教職員の理解と支持	・使命・目的及び教育目的の策定及び改定に役員、教職員の関与・参画状況を示す資料 ・使命・目的及び教育目的を学内外へ周知するための方法・手段を示す資料 ・中長期的な計画と使命・目的及び教育目的との関係を示す資料 ・三つのポリシーと使命・目的及び教育目的との関係を示す資料 ・教育研究組織に関する規則及びその構成を示す組織図・資料	飯谷副学長	飯谷副学長	教育企画室	
			122	使命・目的及び教育目的を学内外に周知しているか。	②学内外への周知		飯谷副学長	飯谷副学長	教育企画室	
			123	使命・目的及び教育目的を中長期的な計画に反映させているか。	③中長期的な計画への反映		飯谷副学長	飯谷副学長	教育企画室	
			124	使命・目的及び教育目的を三つのポリシーに反映させているか。	④三つのポリシー		飯谷副学長	飯谷副学長	教育企画室	
			125	使命・目的及び教育目的を達成するために必要な学部・学科等の教育研究組織を整備しているか。	⑤教育研究組織の構成との整合性		飯谷副学長	飯谷副学長	教育企画室	
2	学生	2-1	学生の受入	211	教育目的を踏まえ、アドミッション・ポリシーを定め、周知しているか。	①教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知	・アドミッション・ポリシーを示す資料 ・アドミッション・ポリシーと入学者受け入れ方法との関連を示す資料 ・収容定員及び入学定員と学生数の現状との対比を示す資料	山村副学長	アドミッションセンター長	アドミッションオフィス室長
				212	アドミッション・ポリシーに沿って、入学者選抜などを公正かつ適切な方法により、適切な体制のもとに運用し、その検証を行っているか。	②アドミッション・ポリシーに沿った入学者受け入れの実施とその検証		山村副学長	アドミッションセンター長	アドミッションオフィス室長
				213	教育を行う環境の確保のため、入学定員及び収容定員に沿って在籍学生を適切に確保しているか。	③入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持		山村副学長	アドミッションセンター長	アドミッションオフィス室長
				214	入試問題の作成は、大学が自ら行っているか。	上記①～③の視点		山村副学長	アドミッションセンター長	アドミッションオフィス室長
				215	定員充足に向けての実現可能な方策を実行しているか。			山村副学長	アドミッションセンター長	企画広報室長、アドミッションオフィス室長
				216	入試戦略・計画と入試広報、大学広報とを結びつけ、学生確保の体制を強化しているか。			山村副学長	アドミッションセンター長	企画広報室長、アドミッションオフィス室長

評価機構の評価基準及び実施主体一覧(案) ※赤字の項目は第3クール計画段階以降に追加・修正された箇所

基準又は主要課題	基準項目	点検・評価項目	評価の視点	エビデンスの例示	実施主体			
					基準責任者	執筆担当者	補助事務室	
	2-2	学修支援	221	教職協働による学生への学修支援に関する方針・計画・実施体制を適切に整備・運営しているか。	①教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備 ②TA( Teaching Assistant)の活用をはじめとする学修支援の充実 ・学修支援に関する方針・計画・実施体制を示す資料 ・職員・TAなどによる学修の支援体制を示す資料 ・退学、休学、留年などの実態及び原因分析、改善方策の検討状況などを示す資料	山村副学長	学習支援室長	学務室長
			222	障がいのある学生への配慮を行っているか。		山村副学長	障害学生支援室長	学務室長
			223	オフィスアワー制度を全学的に実施しているか。		山村副学長	学習支援室長	学務室長
			224	教員の教育活動を支援するために、TAなどを適切に活用しているか。		山村副学長	学習支援室長	学務室長
			225	中途退学、休学及び留年への対応策を行っているか。		山村副学長	学部長	学務室長
	2-3	キャリア支援	231	インターンシップなどを含め、キャリア教育のための支援体制を整備しているか。	①教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備 ・キャリア支援に関する教育課程上及びその他の教育としての取組み状況を示す資料 ・就職・進路先の実態及びその取組み状況を示す資料	山村副学長	キャリア支援室長	キャリア支援室長
			232	就職・進学に対する相談・助言体制を整備し、適切に運営しているか。		山村副学長	キャリア支援室長	キャリア支援室長
	2-4	学生サービス	241	学生サービス、厚生補導のための組織を設置し、適切に機能しているか。	①学生生活の安定のための支援 ・学生相談室、保健室などの利用状況を示す資料 ・奨学金給付・貸与状況を示す資料 ・学生の学外活動などの支援状況を示す資料 ・社会人、編入、転入学生などへの支援状況を示す資料	山村副学長	学生指導委員長	学務室長
			242	奨学金など学生に対する経済的な支援を適切に行っているか。		山村副学長	学生指導委員長	学務室長
			243	学生の課外活動への支援を適切に行っているか。		山村副学長	学生指導委員長	学務室長
244			学生の心身に関する健康相談、心的支援、生活相談などを適切に行っているか。	山村副学長		学生指導委員長	学務室長	
245			学生の自主的活動、大学行事への参加機会の拡充をしているか。	山村副学長		学生指導委員長	学務室長	
2-5	学修環境の整備	251	教育目的の達成のため、校地、運動場、校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、付属施設などの施設・設備を適切に整備し、かつ有効に活用しているか。	①校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理 ②実習施設、図書館棟の有効活用 ・施設設備の安全管理やメンテナンスに関する規則、運用方針、運用計画など及び管理体制を示す資料 ・授業(講義、演習、実験など)のクラスサイズを示す資料	飯谷副学長	施設室長	施設室長	
		252	教育目的の達成のために、快適な学修環境を整備し、かつ有効に活用しているか。		飯谷副学長	施設室長	施設室長	
		253	適切な規模の図書館を有しており、かつ、十分な学術情報資料を確保しているか。開館時間を含め、図書館を十分に利用できる環境を整備しているか。		飯谷副学長	図書館長	施設室長	
		254	教育目的の達成のため、コンピュータなどのICT環境を適切に整備しているか。		飯谷副学長	情報処理センター長	情報化推進室長	



**評価機構の評価基準及び実施主体一覧(案)** ※赤字の項目は第3クール計画段階以降に追加・修正された箇所

基準又は 主要課題	基準項目	点検・評価項目	評価の視点	エビデンスの例示	実施主体					
					基準責任者	執筆担当者	補助事務室			
3 教育課程	2-6 学生の意見・要望への対応	255	③バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性に配慮しているか。	③バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性	・学生への学修支援についての満足度調査及びその分析結果に関する資料、学生からの要望をくみ上げ、支援するシステムに関する資料 ・学生生活についての満足度調査及びその分析結果に関する資料、学生からの要望をくみ上げ、支援するシステムに関する資料 ・施設・設備についての満足度調査及びその分析結果に関する資料、学生からの要望をくみ上げ、支援するシステムに関する資料	飯谷副学長	施設室長	施設室長		
		256	④授業を行う学生数(クラスサイズなど)は、教育効果を十分上げられるような人数となっているか。	④授業を行う学生数の適切な管理		飯谷副学長	学務委員長	学務室長		
		257	施設・設備の安全性(耐震など)を確保しているか。	上記①～④の視点		飯谷副学長	施設室長	施設室長		
		261	学生への学修支援に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、学修支援の体制改善に反映させているか。	①学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用		山村副学長 長	学生支援センター長	学務室長		
		262	学生生活に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、学生生活の改善に反映しているか。	②心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用		山村副学長 長	学生支援センター長	学務室長		
		263	施設・設備に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、施設・設備の改善に反映しているか。	③学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用		山村副学長 長	学生支援センター長	学務室長		
	3-1 単位認定・卒業認定・修了認定	3-1	311	教育目的を踏まえ、ディプロマ・ポリシーを定め、周知しているか。	①教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知	・ディプロマ・ポリシーを示す資料 ・単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準などを示す資料 ・単位認定など成績評価の公平性のため工夫、GPA(Grade Point Average)などの活用状況を示す資料 ・学位認定基準及び学位審査基準手続の実際を示す資料	吉永副学長	学部長、研究科長	学務室長	
			312	ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を適切に定め、周知の上、厳正に適用しているか。	②ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の策定と周知 ③単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用		吉永副学長	学部長、研究科長	学務室長	
		3-2 教育課程及び教授方法	3-2	321	教育目的を踏まえ、カリキュラム・ポリシーを定め、周知しているか。	①カリキュラム・ポリシーの策定と周知	・カリキュラム・ポリシーを示す資料 ・教授方法の工夫・開発の具体例を示す資料 ・教養教育担当組織の現況と活動状況を示す資料 ・単位制の趣旨を保つための工夫(教室外学修の指示など)を示す資料 ・履修登録単位数の上限設定など履修	吉永副学長	学部長、研究科長	学務室長
				322	カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーとの一貫性を確保しているか。	②カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性		吉永副学長	学部長、研究科長	学務室長
				323	カリキュラム・ポリシーに沿った体系的な教育課程を編成し、実施しているか。	③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成		吉永副学長	学部長、研究科長	学務室長
				324	シラバスを適切に整備しているか。			吉永副学長	学務委員長	学務室長

3

**評価機構の評価基準及び実施主体一覧(案)** ※赤字の項目は第3クール計画段階以降に追加・修正された箇所

基準又は 主要課題	基準項目	点検・評価項目	評価の視点	エビデンスの例示	実施主体					
					基準責任者	執筆担当者	補助事務室			
4 教員・職員	4-1 教学マネジメントの機能性	325	履修登録単位数の上限の適切な設定など、単位制度の実質を保つための工夫を行っているか。	④教養教育の実施 ⑤教授方法の工夫・開発と効果的な実施	上の条件と制限などを示す資料	吉永副学長	学務委員長	学務室長		
		326	教養教育を適切に実施しているか。			吉永副学長	共通教育部会長	学務室長		
		327	アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。			吉永副学長	学部長、研究科長	学務室長		
		328	教授方法の改善を進めるために組織体制を整備し、運用しているか。			吉永副学長	FD委員長	教育企画室長		
		329	履修系統図とナンバリングの作成についてのWG答申を実施しているか。			吉永副学長	学務委員長、学務室長	学務室長		
		330	学生が「入って良かった」と思える、学科の専門の特色を活かした教育内容・教育技術が向上しているか。			吉永副学長	学部長、学科長	学務室長		
		331	三つのポリシーのうち、特に、ディプロマ・ポリシーを踏まえた学修成果を明示しているか。			①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用 ②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック	・学修成果を示す資料 ・学修成果の点検・評価方法の測定方法を示す資料 ・学修成果の点検・評価の結果の分析及び教育改善へのフィードバックを示す資料	白井学長特別補佐	学部長、学科長、研究科長	学務室長
		332	学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、卒業時の満足度調査、就職先の企業アンケートなどを実施し、大学が定めた多様な尺度・指標や測定方法に基づいて学修成果を点検・評価しているか。					白井学長特別補佐	学部長、学科長、研究科長	学務室長
		333	学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。					白井学長特別補佐	学部長、学科長、研究科長	学務室長
		411	学長がリーダーシップを適切に発揮するための補佐体制を整備しているか。					①大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップの確立・発揮	飯谷副学長	飯谷副学長
	412	使命・目的を達成するため、教学マネジメントを構築しているか。	②権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した教学マネジメント	・大学の意思決定組織及び構成員、権限に関する規則 ・学長のリーダーシップを支える仕組み(権限の明確化、学長補佐体制、調査・企画部門の整備など)を示す資料 ・教学マネジメントの編成方針と組織の現状を示す組織図・資料 ・職員の経営・教学組織への参画の状況、教職協働の実施状況を示す資料	飯谷副学長	飯谷副学長	総務室長			
	413	大学の意思決定の権限と責任が明確になっているか。			飯谷副学長	飯谷副学長	総務室長			
	414	副学長を置く場合、その組織上の位置づけ及び役割が明確になっており、機能しているか。			飯谷副学長	飯谷副学長	総務室長			
	415	教授会などの組織上の位置づけ及び役割が明確になっており、機能しているか。			飯谷副学長	飯谷副学長	総務室長			

4

**評価機構の評価基準及び実施主体一覧(案)** ※赤字の項目は第3クール計画段階以降に追加・修正された箇所

基準又は主要課題	基準項目	点検・評価項目	評価の視点	エビデンスの例示	実施主体				
					基準責任者	執筆担当者	補助事務室		
5	経営・管理と財務	4-2 教員の配置・職能開発等	416 教授会などに意見を聴くことを必要とする教育研究に関する重要な事項を学長があらかじめ定め、周知しているか。	③職員との配置と役割の明確化などによる教育マネジメントの機能性	・設置基準及び職業資格関連の指定基準と現状との対比を示す資料 ・教員組織編成方針、教員の採用、昇任、異動の方針などに関する資料 ・FD (Faculty Development) 実施計画及びその実施体制・実施状況を示す資料、その他教員研修計画及びその実施状況を示す資料	飯谷副学長	飯谷副学長	総務室長	
			417 大学の意思決定及び教学マネジメントを大学の使命・目的に沿って、適切に行っているか。			飯谷副学長	飯谷副学長	総務室長	
			418 教学マネジメントの遂行に必要な職員を適切に配置し、役割を明確化しているか。			飯谷副学長	飯谷副学長	総務室長	
		4-3 職員の研修	4-2 教員の配置・職能開発等	421 大学及び大学院に必要な専任教員を確保し、適切に配置しているか。	①教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置 ②FD (Faculty Development) をはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施	・設置基準及び職業資格関連の指定基準と現状との対比を示す資料 ・教員組織編成方針、教員の採用、昇任、異動の方針などに関する資料 ・FD (Faculty Development) 実施計画及びその実施体制・実施状況を示す資料、その他教員研修計画及びその実施状況を示す資料	学部長	学部長、研究科長	総務室長
				422 教員の採用・昇任の方針に基づく規則を定め、かつ適切に運用しているか。			学部長	学部長、研究科長	総務室長
				423 FD、その他教員研修の組織的な実施とその見直しを行っているか。			学部長	FD 委員長	教育企画室長
		4-4 研究支援	4-3 職員の研修	431 職員の資質・能力向上のための研修などの組織的な実施とその見直しを行っているか。	①SD (Staff Development) をはじめとする大学運営に関わる職員の資質・能力向上 ②研究環境の整備と適切な運営・管理 ③研究倫理の確立と厳正な運用 ④研究活動への資源の配分	・職位委の資質・能力向上のための研修の計画、実施状況、人事評価・育成制度などを示す資料 ・研究環境に関する教員及び学生満足度調査の結果を示す資料 ・研究倫理の確立を示す資料 ・研究活動への資源の配分状況を示す資料	大野常務理事	大野常務理事	総務室長
				441 快適な研究環境を整備し、有効に活用しているか。			学部長	学部長、研究科長	学術・地域連携室長
				442 研究倫理に関する規則を整備し、厳正に運用しているか。			学部長	研究倫理委員長	学術・地域連携室長
				443 研究活動への資源配分に関する規則を整備し、設備などの物的支援と RA (Research Assistant) などの人的支援を行っているか。			学部長	学部長、研究科長	学術・地域連携室長
		5-1 経営の規律と誠実性	4-4 研究支援	444 研究活動のための外部資金の導入の努力を行っているか。	上記①～③の視点		学部長	学部長、研究科長	学術・地域連携室長
				511 経営の規律と誠実性を維持しているか。	①経営の規律と誠実性の維持 ②使命・目的の実現への継続的努力	・経営の基本方針として経営の規律と誠実性の維持を表明した資料、組織の倫理・規律に関する綱領・規律など ・環境保全、人権、安全に関する方	大野常務理事	大野常務理事	総務室長
		512 使命・目的の実現に向けて継続的に努力しているか。	大野常務理事	大野常務理事			総務室長		

**評価機構の評価基準及び実施主体一覧(案)** ※赤字の項目は第3クール計画段階以降に追加・修正された箇所

基準又は主要課題	基準項目	点検・評価項目	評価の視点	エビデンスの例示	実施主体				
					基準責任者	執筆担当者	補助事務室		
5	経営・管理と財務	5-2 理事会の機能	513 環境保全、人権、安全への配慮をしているか。	③環境保全、人権、安全への配慮	針、計画、具体的措置を示す資料	大野常務理事	大野常務理事	総務室長	
			514 学内外に対する危機管理体制を整備し、かつ適切に機能しているか。			大野常務理事	大野常務理事	総務室長	
		5-3 管理運営の円滑化と相互チェック	5-2 理事会の機能	521 使命・目的の達成に向けて意思決定ができる体制が整備し、機能しているか。	①使命・目的の達成に向けて意思決定ができる体制の整備とその機能性 ②法人及び大学の管理運営機関の意思決定の円滑化	・機能的な意思決定のための仕組み(常務理事会、政策調整機関など)を示す組織図・資料 ・理事会機能の補佐体制を示す資料 ・理事会権限委任、理事の職務分担などを示す資料	大野常務理事	大野常務理事	総務室長
				522 理事の選任及び事業計画の確実な執行など、理事会の運営を適切に行っているか。			大野常務理事	大野常務理事	総務室長
				523 理事の出席状況及び欠席時の委任状は適切か。			大野常務理事	大野常務理事	総務室長
				531 意思決定において、法人及び大学の各管理運営機関の意思疎通と連携を適切に行っているか。			大野常務理事	大野常務理事	総務室長
		5-4 財務基盤と収支	5-3 管理運営の円滑化と相互チェック	532 理事長がリーダーシップを発揮できる内部統制環境を整備しているか。	②法人及び大学の管理運営機関の相互チェックの機能性	・法人の業務、財産及び役員の業務執行の状況などに対する監事の意見などを示す資料 ・監事の選任状況及び職務執行の状況を示す資料 ・監事の職務執行の支援状況を示す資料 ・評議員会への諮問状況を示す資料 ・教職員からの情報や提案が生かされる仕組み及びその実施状況を示す資料	大野常務理事	大野常務理事	総務室長
				533 教職員の提案などをくみ上げる仕組みを整備しているか。			大野常務理事	大野常務理事	総務室長
				534 法人及び大学の各管理運営機関が相互チェックする体制を整備し、適切に機能しているか。			大野常務理事	大野常務理事	総務室長
				535 監事の選任を適切に行っているか。			大野常務理事	大野常務理事	総務室長
				536 評議員の選任及び評議員会の運営を適切に行っているか。			大野常務理事	大野常務理事	総務室長
				537 監事の理事会及び評議員会などへの出席状況は適切か。			大野常務理事	大野常務理事	総務室長
				538 監事は、理事会及び評議員会などへ出席し、学校法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行状況について意見を述べているか。			大野常務理事	大野常務理事	総務室長
		539 評議員の評議員会への出席状況は適切か。	大野常務理事	大野常務理事	総務室長				
		5-4 財務基盤と収支	5-4 財務基盤と収支	541 中長期的な計画に基づく財務運営を行っているか。	①中小期的な計画に基づく適切な財務運営の確立 ②安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保	・事業計画、予算編成方針及び財務指標などを示す資料 ・中小期的な計画及びその裏付けとなる財務計画を示す資料 ・事業活動収支計算書関係比率(法人全体及び大学単独)、貸借対照表関係	大野常務理事	大野常務理事	財務室長
				542 安定した財務基盤を確立しているか。			大野常務理事	大野常務理事	財務室長
543 使命・目的及び教育目的の達成のため、収入と支出のバランスを保っているか。	大野常務理事			大野常務理事			財務室長		

**評価機構の評価基準及び実施主体一覧(案)** ※赤字の項目は第3クール計画段階以降に追加・修正された箇所

基準又は主要課題	基準項目	点検・評価項目	評価の視点	エビデンスの例示	実施主体			
					基準責任者	執筆担当者	補助事務室	
		544 使命・目的及び教育目的の達成のため、外部資金の導入の努力を行っているか。		比率(法人全体)、活動区分資金収支計算書関係比率(法人全体) ・文部科学省に提出した計算書のコピー(過去5年分) ・予算書、財産目録など(最新のもの) ・金融資産の運用状況(過去5年間)	大野常務理事	大野常務理事	財務室長	
	5-5 会計	551 会計処理は適正に実施しているか。	①会計処理の適正な実施	・監事の監査報告書、理事会議事録(評議員会を含む) ・資産運用に関する規則	大野常務理事	大野常務理事	財務室長	
		552 会計監査の体制を整備し、厳正に実施しているか。	②会計監査の体制整備と厳正な実施		大野常務理事	大野常務理事	財務室長	
		553 予算と著しく乖離がある決算額の科目について、補正予算を編成しているか。	上記①、②の視点		大野常務理事	大野常務理事	財務室長	
6 内部質保証	6-1 内部質保証の組織体制	611 内部質保証に関する全学的な方針を明示しているか。	①内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立	内部質保証に関する全学的な方針を示す資料 ・内部質保障のための組織及び責任体制を示す組織図・資料	白井学長特別補佐	自己点検・評価委員長	教育企画室長	
		612 内部質保証のための恒常的な組織体制を整備しているか。						
		613 内部質保証のための責任体制が明確になっているか。						
	6-2 内部質保証のための自己点検・評価	621 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価を行っているか。	①内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有		内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の項目を示す資料 ・自己点検・評価及び認証評価などの外部評価の結果の共有と社会への公表の状況を示す資料 ・IR機能の構築及び活動状況を示す資料	白井学長特別補佐	自己点検・評価委員長	教育企画室長
		622 エビデンスに基づく、自己点検・評価を定期的に実施しているか。						
		623 自己点検・評価の結果を学内で共有し、社会へ公表しているか。						
		624 現状把握のための十分な調査・データの収集と分析を行える体制を整備しているか。						
	6-3 内部質保証の機能性	631 三つのポリシーを起点とした内部質保証が行われ、その結果が教育の改善・向上に反映されているか。	①内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組みの確立とその機能性		三つのポリシーを起点とした教育の質保証活動とその結果に基づく改善活動を示す資料 ・自己点検・評価、認証評価及び設置計画履行状況等調査などの結果への改善状況を示す資料	白井学長特別補佐	自己点検・評価委員長	教育企画室長
		632 自己点検・評価、認証評価及び設置計画履行状況等調査などの結果に基づき、大学運営の改善・向上のために内部質保証の仕組みが機能しているか。						
A 大学院研究科の改組・改革(本学主要課題)	A1 大学院博士課程の設置を再度目指し準備をしているか。			研究科長	研究科長	教育企画室長		
	A2 修士課程の定員充足のために対応策を講じている。			研究科長	研究科長	企画広報室長		

**評価機構の評価基準及び実施主体一覧(案)** ※赤字の項目は第3クール計画段階以降に追加・修正された箇所

基準又は主要課題	基準項目	点検・評価項目	評価の視点	エビデンスの例示	実施主体		
					基準責任者	執筆担当者	補助事務室
		A3 大学院附置研究所構想の検討に着手しているか。			研究科長	研究科長	
B グローバル化の推進(本学主要課題)	B1 国内外を視野に入れ、アジア諸国の友人としての大学となれるよう活動しているか。				吉永副学長	国際交流センター長	学務室長
	B2 新型コロナウイルス感染症拡大に制約されない教員・学生の国際連携を強化しているか。				吉永副学長	国際交流センター長	学務室長
	B3 卒業後のキャリアパスを視野に入れた幅広い留学生の迎え入れをしているか。				吉永副学長	国際交流センター長	学務室長
C 地域連携の強化(本学主要課題)	C1 家政系女子大学の「個性」を発揮し、他大学、小中高、企業・団体、地域社会との継続性を担保する連携活動をしているか。				吉永副学長	地域連携・研究センター長	学術・地域連携室長
	C2 地域のニーズをトータルに受け止める仕組みを強化しているか。				吉永副学長	地域連携・研究センター長	学術・地域連携室長

## 自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）

基準1	使命・目的等
基準項目 1 - 1	使命・目的及び教育目的の設定

担当部局等の長	教学担当副学長
---------	---------

## I. 自己点検・評価

## 1. 自己点検・評価結果&lt;判定&gt;

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

「A」:満たしている／前年度の改善・向上方策:全て達成済

「B」:満たしている／前年度の改善・向上方策:計画進行中

「C」:満たしている／前年度の改善・向上方策:計画検討中

「D」:満たしていない／認証評価で「不適合」もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

項目 No.	評価項目 点検項目（評価の視点）	自己評価	
		現状	改善
111	使命・目的及び教育目的を具体的に明文化している。		
112	使命・目的及び教育目的を簡潔に文章化している。		
113	使命・目的及び教育目的に大学の個性・特色を反映し、明示しているか。		
114	社会情勢などに対応し、必要に応じて使命・目的及び教育目的の見直しなどを行っているか。		
115	使命・目的及び教育目的が、掲載する媒体により異なる表現となっている場合、その趣旨が一貫したものとなっているか。		

## 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」 検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

## 3. 伸長・改善に向けた取組

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取組について、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

--

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）

#### 4. 根拠資料

項目 No.	根拠番号	根拠資料の名称

#### II. 検証結果（外部評価委員会記入）

総評
長所・特色<箇条書き>
課題事項<箇条書き> 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

## 自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）

基準1	使命・目的等
基準項目 1 - 2	使命・目的及び教育目的の反映

担当部局等の長	教学担当副学長
---------	---------

### I. 自己点検・評価

#### 1. 自己点検・評価結果<認定>

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

- 「A」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 全て達成済
- 「B」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画進行中
- 「C」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画検討中
- 「D」: 満たしていない／認証評価で「不適合」もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
121	使命・目的及び教育目的の策定などに役員、教職員が関与・参画しているか。		
122	使命・目的及び教育目的を学内外に周知しているか。		
123	使命・目的及び教育目的を中長期的な計画に反映させているか。		
124	使命・目的及び教育目的を三つのポリシーに反映させているか。		
125	使命・目的及び教育目的を達成するために必要な学部・学科等の教育研究組織が整備されているか。		

#### 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」 検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

#### 3. 伸長・改善に向けた取組

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取組について、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

--

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）

#### 4. 根拠資料

項目 No.	根拠番号	根拠資料の名称

#### II. 検証結果（外部評価委員会記入）

総評
長所・特色<箇条書き>
課題事項<箇条書き> 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

## 自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）

基準 2	学生
基準項目 2 - 1	学生の受入れ

担当部局等の長	アドミッションセンター長
---------	--------------

### I. 自己点検・評価

#### 1. 自己点検・評価結果<認定>

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

- 「A」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 全て達成済  
 「B」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画進行中  
 「C」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画検討中  
 「D」: 満たしていない／認証評価で「不適合」もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

項目 No.	評価項目 点検項目（評価の視点）	自己評価	
		現状	改善
211	教育目的を踏まえ、アドミッション・ポリシー（AP）を定め、周知しているか。		
212	APに沿って、入学者選抜などを公正かつ妥当な方法により、適切な体制のもとに運用し、その検証を行っているか。		
213	教育を行う環境の確保のため、入学定員及び収容定員に沿って在籍学生を適切に確保しているか。		
214	入試問題の作成は、大学が自ら行っているか。		

項目 No.	中期計画達成に向けた主要課題 学生の確保	自己評価	
		現状	改善
215	定員充足に向けての実現可能な方策を実行しているか。		
216	入試戦略・計画と入試広報、大学広報とを結びつけ、学生確保の体制を強化しているか。		

#### 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

#### 3. 伸長・改善に向けた取組

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取組について、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

--



<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）

4. 根拠資料

項目 No.	根拠番号	根拠資料の名称

II. 検証結果（外部評価委員会記入）

総評
長所・特色<箇条書き>
課題事項<箇条書き> 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

## 自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）

基準 2	学生
基準項目 2 - 2	学修支援

担当部局等の長	学生支援センター長
---------	-----------

### I. 自己点検・評価

#### 1. 自己点検・評価結果<認定>

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

- 「A」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 全て達成済
- 「B」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画進行中
- 「C」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画検討中
- 「D」: 満たしていない／認証評価で「不適合」もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	
221	教職協働による学生への学修支援に関する方針・計画・実施体制を適切に整備・運営しているか。		
222	障がいのある学生への配慮を行っているか。		
223	オフィスアワー制度を全学的に実施しているか。		
224	教員の教育活動を支援するために、TAなどを適切に活用しているか。		
225	中途退学、休学及び留年への対応策を行っているか。		

#### 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」 検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

#### 3. 伸長・改善に向けた取組

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取組について、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

--

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）

#### 4. 根拠資料

項目 No.	根拠番号	根拠資料の名称

#### II. 検証結果（外部評価委員会記入）

総評
長所・特色<箇条書き>
課題事項<箇条書き> 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

## 自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）

基準 2	学生
基準項目 2 - 3	キャリア支援

担当部局等の長	キャリア支援室長
---------	----------

### I. 自己点検・評価

#### 1. 自己点検・評価結果<認定>

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

- 「A」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 全て達成済
- 「B」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画進行中
- 「C」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画検討中
- 「D」: 満たしていない／認証評価で「不適合」もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	
231	インターンシップなどを含め、キャリア教育のための支援体制を整備しているか。		
232	就職・進学に対する相談・助言体制を整備し、適切に運営しているか。		

#### 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」 検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

#### 3. 伸長・改善に向けた取組

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取組について、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

--

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）

4. 根拠資料

項目 No.	根拠番号	根拠資料の名称

II. 検証結果（外部評価委員会記入）

総評
長所・特色<箇条書き>
課題事項<箇条書き> 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

## 自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）

基準 2	学生
基準項目 2 - 4	学生サービス

担当部局等の長	学生指導委員長
---------	---------

### I. 自己点検・評価

#### 1. 自己点検・評価結果<認定>

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

- 「A」: 満たしている / 前年度の改善・向上方策: 全て達成済
- 「B」: 満たしている / 前年度の改善・向上方策: 計画進行中
- 「C」: 満たしている / 前年度の改善・向上方策: 計画検討中
- 「D」: 満たしていない / 認証評価で「不適合」もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
241	学生サービス、厚生補導のための組織を設置し、適切に機能しているか。		
242	奨学金など学生に対する経済的な支援を適切に行っているか。		
243	学生の課外活動への支援を適切に行っているか。		
244	学生の心身に関する健康相談、心的支援、生活相談などを適切に行っているか。		

項目 No.	中期計画達成に向けた主要課題	自己評価	
	学生の確保	現状	改善
245	学生の自主的活動、大学行事への参加機会の拡充をしているか。		

#### 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」 検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

3. 伸長・改善に向けた取組

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取組について、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

--

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）

4. 根拠資料

項目 No.	根拠番号	根拠資料の名称

II. 検証結果（外部評価委員会記入）

総評
長所・特色<箇条書き>
課題事項<箇条書き> 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

## 自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）

基準 2	学生
基準項目 2 - 5	学修環境の整備

担当部局等の長	施設室長、図書館長、情報処理センター長、情報化推進室長、学務委員長
---------	-----------------------------------

### I. 自己点検・評価

#### 1. 自己点検・評価結果<認定>

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

- 「A」: 満たしている / 前年度の改善・向上方策: 全て達成済
- 「B」: 満たしている / 前年度の改善・向上方策: 計画進行中
- 「C」: 満たしている / 前年度の改善・向上方策: 計画検討中
- 「D」: 満たしていない / 認証評価で「不適合」もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
251	教育目的の達成のため、校地、運動場、校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、附属施設などの施設設備を適切に整備し、かつ有効に活用しているか。		
252	教育目的の達成のために、快適な学修環境を整備し、かつ有効に活用しているか。		
253	適切な規模の図書館を有しており、かつ、十分な学術情報資料を確保しているか。開館時間を含め、図書館を十分に利用できる環境を整備しているか。		
254	教育目的の達成のため、コンピュータなどのICT環境を適切に整備しているか。		
255	バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性に配慮しているか。		
256	授業を行う学生数（クラスサイズなど）は、教育効果を十分上げられるような人数となっているか。		
257	施設・設備の安全性（耐震など）を確保しているか。		

#### 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」 検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。



### 3. 伸長・改善に向けた取組

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取組について、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

--

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）

### 4. 根拠資料

項目 No.	根拠番号	根拠資料の名称

## II. 検証結果（外部評価委員会記入）

総評
長所・特色<箇条書き>
課題事項<箇条書き> 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

## 自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）

基準 2	学生
基準項目 2 - 6	学生の意見・要望への対応

担当部局等の長	学生支援センター長
---------	-----------

### I. 自己点検・評価

#### 1. 自己点検・評価結果<認定>

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

- 「A」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 全て達成済
- 「B」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画進行中
- 「C」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画検討中
- 「D」: 満たしていない／認証評価で「不適合」もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
261	学生への学修支援に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、学修支援の体制改善に反映させているか。		
262	学生生活に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、学生生活の改善に反映しているか。		
263	施設・設備に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、施設・設備の改善に反映しているか。		

#### 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」 検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

#### 3. 伸長・改善に向けた取組

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取組について、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

--

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）

#### 4. 根拠資料

項目 No.	根拠番号	根拠資料の名称

#### II. 検証結果（外部評価委員会記入）

総評
長所・特色<箇条書き>
課題事項<箇条書き> 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

## 自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）

基準 3	教育課程
基準項目 3-1	単位認定・卒業認定・修了認定

担当部局等の長	学部長、研究科長
---------	----------

### I. 自己点検・評価

#### 1. 自己点検・評価結果<認定>

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

- 「A」: 満たしている / 前年度の改善・向上方策: 全て達成済
- 「B」: 満たしている / 前年度の改善・向上方策: 計画進行中
- 「C」: 満たしている / 前年度の改善・向上方策: 計画検討中
- 「D」: 満たしていない / 認証評価で「不適合」もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
311	教育目的を踏まえ、ディプロマ・ポリシー（DP）を定め、周知しているか。		
312	DPを踏まえた単位認定基準を適切に定め、厳正に適用しているか。		
313	DPを踏まえた進級基準を適切に定め、厳正に適用しているか。		
314	DPを踏まえた卒業認定基準を適切に定め、厳正に適用しているか。		
315	DPを踏まえた修了認定基準を適切に定め、厳正に適用しているか。		

#### 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

<p>現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。</p>

3. 伸長・改善に向けた取組

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取組について、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

--

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）

4. 根拠資料

項目 No.	根拠番号	根拠資料の名称

II. 検証結果（外部評価委員会記入）

総評
長所・特色<箇条書き>
課題事項<箇条書き> 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

## 自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）

基準 3	教育課程
基準項目 3-2	教育課程及び教授方法

担当部局等の長	学部長、研究科長、学務委員長、共通教育部会長、FD委員長
---------	------------------------------

### I. 自己点検・評価

#### 1. 自己点検・評価結果<認定>

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

- 「A」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 全て達成済
- 「B」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画進行中
- 「C」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画検討中
- 「D」: 満たしていない／認証評価で「不適合」もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

項目 No.	評価項目 点検項目（評価の視点）	自己評価	
		現状	改善
321	教育目的を踏まえ、カリキュラム・ポリシー（CP）を定め、周知しているか。		
322	CPは、DPとの一貫性が確保されているか。		
323	CPに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。		
324	シラバスを適切に整備しているか。		
325	履修登録単位数の上限の適切な設定など、単位制度の実質を保つための工夫が行われているか。		
326	教養教育を適切に実施しているか。		
327	アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。		
328	教授方法の改善を進めるために組織体制を整備し、運用しているか。		

項目 No.	中期計画達成に向けた主要課題 学部・学科改組の実質化を進める大学教育改革	自己評価	
		現状	改善
329	履修系統図とナンバリングの作成についてのWG答申を実施しているか。		
	学生の確保	現状	改善
330	学生が「入って良かった」と思える、学科の専門の特色を活かした教育内容・教育技術が向上しているか。		

#### 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」 検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

3. 伸長・改善に向けた取組

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取組について、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

--

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）

4. 根拠資料

項目 No.	根拠番号	根拠資料の名称

II. 検証結果（外部評価委員会記入）

総評
長所・特色<箇条書き>
課題事項<箇条書き> 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

## 自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）

基準 3	教育課程
基準項目 3-3	学修成果の点検・評価

担当部局等の長	学部長、学科長、研究科長
---------	--------------

### I. 自己点検・評価

#### 1. 自己点検・評価結果<認定>

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

- 「A」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 全て達成済
- 「B」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画進行中
- 「C」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画検討中
- 「D」: 満たしていない／認証評価で「不適合」もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
331	三つのポリシーのうち、特に、ディプロマ・ポリシーを踏まえた学修成果を明示しているか。		
332	学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査を実施し、大学が定めた多様な尺度・指標や測定方法に基づいて学修成果を点検・評価しているか。		
333	学生の意識調査、卒業時の満足度調査などを実施し、大学が定めた多様な尺度・指標や測定方法に基づいて学習成果を点検・評価しているか。		
334	就職先の企業アンケートなどを実施し、大学が定めた多様な尺度・指標や測定方法に基づいて学習成果を点検・評価しているか。		
335	学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。		

#### 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」 検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。	

#### 3. 伸長・改善に向けた取組

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取組について、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

--

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）



#### 4. 根拠資料

項目 No.	根拠番号	根拠資料の名称

#### II. 検証結果（外部評価委員会記入）

総評
長所・特色<箇条書き>
課題事項<箇条書き> 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

## 自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）

基準 4	教員・職員
基準項目 4-1	教学マネジメントの機能性

担当部局等の長	教学担当副学長、学長特別補佐
---------	----------------

### I. 自己点検・評価

#### 1. 自己点検・評価結果<認定>

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

- 「A」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 全て達成済
- 「B」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画進行中
- 「C」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画検討中
- 「D」: 満たしていない／認証評価で「不適合」もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
411	学長がリーダーシップを適切に発揮するための補佐体制が整備されているか。		
412	使命・目的を達成するため、教学マネジメントを構築しているか。		
413	大学の意思決定の権限と責任が明確になっているか。		
414	副学長を置く場合、その組織上の位置づけ及び役割が明確になっており、機能しているか。		
415	教授会などの組織上の位置づけ及び役割が明確になっており、機能しているか。		
416	教授会などに意見を聴くことを必要とする教育研究に関する重要な事項を学長があらかじめ定め、周知しているか。		
417	大学の意思決定及び教学マネジメントが大学の使命・目的に沿って、適切に行われているか。		
418	教学マネジメントの遂行に必要な職員を適切に配置し、役割を明確化しているか。		

#### 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」 検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

### 3. 伸長・改善に向けた取組

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取組について、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

--

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）

### 4. 根拠資料

項目 No.	根拠番号	根拠資料の名称

## II. 検証結果（外部評価委員会記入）

総評
長所・特色<箇条書き>
課題事項<箇条書き> 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

## 自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）

基準 4	教員・職員
基準項目 4－2	教員の配置・職能開発等

担当部局等の長	学部長、研究科長、FD委員長
---------	----------------

### I. 自己点検・評価

#### 1. 自己点検・評価結果<認定>

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

- 「A」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 全て達成済
- 「B」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画進行中
- 「C」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画検討中
- 「D」: 満たしていない／認証評価で「不適合」もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

項目 No.	評価項目 点検項目（評価の視点）	自己評価	
		現状	改善
421	大学及び大学院に必要な専任教員を確保し、適切に配置しているか。		
422	教員の採用・昇任の方針に基づく規則を定め、かつ適切に運用しているか。		
423	FD, その他教員研修の組織的な実施とその見直しを行っているか。		

#### 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」 検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

#### 3. 伸長・改善に向けた取組

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取組について、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

--

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）

#### 4. 根拠資料

項目 No.	根拠番号	根拠資料の名称

#### II. 検証結果（外部評価委員会記入）

総評
長所・特色<箇条書き>
課題事項<箇条書き> 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

## 自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）

基準 4	教員・職員
基準項目 4－3	職員の研修

担当部局等の長	常務理事
---------	------

### I. 自己点検・評価

#### 1. 自己点検・評価結果<認定>

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

- 「A」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 全て達成済
- 「B」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画進行中
- 「C」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画検討中
- 「D」: 満たしていない／認証評価で「不適合」もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
431	職員の資質・能力向上のための研修などの組織的な実施とその見直しを行っているか。		

#### 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」 検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

#### 3. 伸長・改善に向けた取組

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取組について、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

--

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）

#### 4. 根拠資料

項目 No.	根拠番号	根拠資料の名称

#### II. 検証結果（外部評価委員会記入）

総評
長所・特色<箇条書き>
課題事項<箇条書き> 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

## 自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）

基準 4	教員・職員
基準項目 4 - 4	研究支援

担当部局等の長	〇〇委員長、研究倫理委員長
---------	---------------

### I. 自己点検・評価

#### 1. 自己点検・評価結果<認定>

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

- 「A」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 全て達成済
- 「B」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画進行中
- 「C」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画検討中
- 「D」: 満たしていない／認証評価で「不適合」もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

項目 No.	評価項目 点検項目（評価の視点）	自己評価	
		現状	改善
441	快適な研究環境を整備し、有効に活用しているか。		
442	研究倫理に関する規則を整備し、厳正に運用しているか。		
443	研究活動への資源配分に関する規則を整備し、設備などの物的支援とRA（Research Assistant）などの人的支援を行っているか。		
444	研究活動のための外部資金の導入の努力を行っているか。		

#### 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」 検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

#### 3. 伸長・改善に向けた取組

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取組について、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

--

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）



#### 4. 根拠資料

項目 No.	根拠番号	根拠資料の名称

#### II. 検証結果（外部評価委員会記入）

総評
長所・特色<箇条書き>
課題事項<箇条書き> 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

## 自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）

基準 5	経営・管理と財務
基準項目 5-1	経営の規律と誠実性

担当部局等の長	総務・財務・施設担当理事
---------	--------------

### I. 自己点検・評価

#### 1. 自己点検・評価結果<認定>

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

- 「A」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 全て達成済
- 「B」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画進行中
- 「C」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画検討中
- 「D」: 満たしていない／認証評価で「不適合」もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

項目 No.	評価項目 点検項目（評価の視点）	自己評価	
		現状	改善
511	経営の規律と誠実性を維持しているか。		
512	使命・目的の実現に向けて継続的に努力しているか。		
513	環境保全、人権、安全への配慮をしているか。		
514	学内外に対する危機管理の体制を整備し、かつ適切に機能しているか。		

#### 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」 検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

#### 3. 伸長・改善に向けた取組

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取組について、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

--

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）

#### 4. 根拠資料

項目 No.	根拠番号	根拠資料の名称

#### II. 検証結果（外部評価委員会記入）

総評
長所・特色<箇条書き>
課題事項<箇条書き> 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

## 自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）

基準 5	経営・管理と財務
基準項目 5－2	理事会の機能

担当部局等の長	総務・財務・施設担当理事
---------	--------------

### I. 自己点検・評価

#### 1. 自己点検・評価結果<認定>

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

- 「A」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 全て達成済
- 「B」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画進行中
- 「C」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画検討中
- 「D」: 満たしていない／認証評価で「不適合」もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
521	使命・目的の達成に向けて意思決定ができる体制が整備し、機能しているか。		
522	理事の選任及び事業計画の確実な執行など、理事会の運営を適切に行っているか。		
523	理事の出席状況及び欠席時の委任状は適切か。		

#### 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」 検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

#### 3. 伸長・改善に向けた取組

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取組について、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

--

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）

#### 4. 根拠資料

項目 No.	根拠番号	根拠資料の名称

#### II. 検証結果（外部評価委員会記入）

総評
長所・特色<箇条書き>
課題事項<箇条書き> 各項に【改善勧告】 【努力課題】 又は【留意点】を記載

## 自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）

基準 5	経営・管理と財務
基準項目 5－3	管理運営の円滑化と相互チェック

担当部局等の長	総務・財務・施設担当理事
---------	--------------

### I. 自己点検・評価

#### 1. 自己点検・評価結果<認定>

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

- 「A」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 全て達成済  
 「B」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画進行中  
 「C」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画検討中  
 「D」: 満たしていない／認証評価で「不適合」もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
531	意思決定において、法人及び大学の各管理運営機関の意思疎通と連携を適切に行っているか。		
532	理事長がリーダーシップを発揮できる内部統制環境を整備しているか。		
533	教職員の提案などをくみ上げる仕組みを整備しているか。		
534	法人及び大学の各管理運営機関が相互チェックする体制を整備し、適切に機能しているか。		
535	監事の選任を適切に行っているか。		
536	評議員の選任及び評議員会の運営を適切に行っているか。		
537	監事の理事会及び評議員会などへの出席状況は適切か。		
538	監事は、理事会及び評議員会などへ出席し、学校法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行状況について意見を述べているか。		
539	評議員の評議員会への出席状況は適切か。		

#### 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」 検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

3. 伸長・改善に向けた取組

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取組について、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

--

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）

4. 根拠資料

項目 No.	根拠番号	根拠資料の名称

II. 検証結果（外部評価委員会記入）

総評
長所・特色<箇条書き>
課題事項<箇条書き> 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

## 自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）

基準 5	経営・管理と財務
基準項目 5－4	財務基盤と収支

担当部局等の長	総務・財務・施設担当理事
---------	--------------

### I. 自己点検・評価

#### 1. 自己点検・評価結果<認定>

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

- 「A」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 全て達成済
- 「B」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画進行中
- 「C」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画検討中
- 「D」: 満たしていない／認証評価で「不適合」もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
541	中長期的な計画に基づく適切な財務運営を確立しているか。		
542	安定した財務基盤を確立し、収支バランスを確保しているか。		
543	使命・目的及び教育目的の達成のため、収入と支出のバランスを保っているか。		
544	使命・目的及び教育目的の達成のため、外部資金の導入の努力を行っているか。		

#### 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」 検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

#### 3. 伸長・改善に向けた取組

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取組について、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

--

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）



#### 4. 根拠資料

項目 No.	根拠番号	根拠資料の名称

#### II. 検証結果（外部評価委員会記入）

総評
長所・特色<箇条書き>
課題事項<箇条書き> 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

## 自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）

基準 5	経営・管理と財務
基準項目 5 - 5	会計

担当部局等の長	総務・財務・施設担当理事
---------	--------------

### I. 自己点検・評価

#### 1. 自己点検・評価結果<認定>

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

- 「A」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 全て達成済
- 「B」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画進行中
- 「C」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画検討中
- 「D」: 満たしていない／認証評価で「不適合」もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

項目 No.	評価項目 点検項目（評価の視点）	自己評価	
		現状	改善
551	会計処理は適正に実施しているか。		
552	会計監査の体制を整備し、厳正に実施しているか。		
553	予算と著しくかい離がある決算額の科目について、補正予算を編成しているか。		

#### 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」 検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

#### 3. 伸長・改善に向けた取組

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取組について、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

--

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）

#### 4. 根拠資料

項目 No.	根拠番号	根拠資料の名称

#### II. 検証結果（外部評価委員会記入）

総評
長所・特色<箇条書き>
課題事項<箇条書き> 各項に【改善勧告】 【努力課題】 又は【留意点】を記載

## 自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）

基準 6	内部質保証
基準項目 6-1	内部質保証の組織体制

担当部局等の長	学長特別補佐、自己点検・評価委員長
---------	-------------------

### I. 自己点検・評価

#### 1. 自己点検・評価結果<認定>

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

- 「A」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 全て達成済
- 「B」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画進行中
- 「C」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画検討中
- 「D」: 満たしていない／認証評価で「不適合」もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

項目 No.	評価項目 点検項目（評価の視点）	自己評価	
		現状	改善
611	内部質保証に関する全学的な方針を明示しているか。		
612	内部質保証のための恒常的な組織体制を整備しているか。		
613	内部質保証のための責任体制が明確になっているか。		

#### 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」 検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

#### 3. 伸長・改善に向けた取組

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取組について、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

--

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）

#### 4. 根拠資料

項目 No.	根拠番号	根拠資料の名称

#### II. 検証結果（外部評価委員会記入）

総評
長所・特色<箇条書き>
課題事項<箇条書き> 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

## 自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）

基準 6	内部質保証
基準項目 6-2	内部質保証のための自己点検・評価

担当部局等の長	自己点検・評価委員長
---------	------------

### I. 自己点検・評価

#### 1. 自己点検・評価結果<認定>

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

- 「A」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 全て達成済
- 「B」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画進行中
- 「C」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画検討中
- 「D」: 満たしていない／認証評価で「不適合」もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
621	内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価を行っているか。		
622	エビデンスに基づく、自己点検・評価を定期的実施しているか。		
623	自己点検・評価の結果を学内で共有し、社会へ公表しているか。		
624	現状把握のための十分な調査・データの収集と分析を行える体制を整備しているか。		

#### 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」 検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

#### 3. 伸長・改善に向けた取組

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取組について、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

--

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）

#### 4. 根拠資料

項目 No.	根拠番号	根拠資料の名称

#### II. 検証結果（外部評価委員会記入）

総評
長所・特色<箇条書き>
課題事項<箇条書き> 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

## 自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）

基準 6	内部質保証
基準項目 6－3	内部質保証の機能性

担当部局等の長	学長特別補佐、自己点検・評価委員長
---------	-------------------

### I. 自己点検・評価

#### 1. 自己点検・評価結果<認定>

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

- 「A」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 全て達成済
- 「B」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画進行中
- 「C」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画検討中
- 「D」: 満たしていない／認証評価で「不適合」もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
631	三つのポリシーを起点とした内部質保証が行われ、その結果が教育の改善・向上に反映されているか。		
632	自己点検・評価、認証評価及び設置計画履行状況等調査などの結果を踏まえた中長期的な計画に基づき、大学運営の改善・向上のために内部質保証の仕組みが機能しているか。		

#### 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

#### 3. 伸長・改善に向けた取組

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取組について、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

--

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）



#### 4. 根拠資料

項目 No.	根拠番号	根拠資料の名称

#### II. 検証結果（外部評価委員会記入）

総評
長所・特色<箇条書き>
課題事項<箇条書き> 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

## 自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）

主要課題A	大学院研究科の改組・改革
-------	--------------

担当部局等の長	研究科長
---------	------

### I. 自己点検・評価

#### 1. 自己点検・評価結果<認定>

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

- 「A」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 全て達成済
- 「B」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画進行中
- 「C」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画検討中
- 「D」: 満たしていない／認証評価で「不適合」もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
A 1	大学院博士課程の設置を再度目指し準備をしているか。		
A 2	修士課程の定員充足のために対応策を講じている。		
A 3	大学院附置研究所構想の検討に着手しているか。		

#### 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」 検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

#### 3. 伸長・改善に向けた取組

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取組について、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

--

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）

#### 4. 根拠資料

項目 No.	根拠番号	根拠資料の名称

#### II. 検証結果（外部評価委員会記入）

総評
長所・特色<箇条書き>
課題事項<箇条書き> 各項に【改善勧告】 【努力課題】 又は【留意点】を記載

## 自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）

主要課題B	グローバル化の推進
-------	-----------

担当部局等の長	国際交流センター長
---------	-----------

### I. 自己点検・評価

#### 1. 自己点検・評価結果<認定>

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

- 「A」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 全て達成済
- 「B」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画進行中
- 「C」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画検討中
- 「D」: 満たしていない／認証評価で「不適合」もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
B 1	国内外を視野に入れ、アジア諸国の友人としての大学となれるよう活動しているか。		
B 2	新型コロナウイルス感染症拡大に制約されない教員・学生の国際連携を強化しているか。		
B 3	卒業後のキャリアパスを視野に入れた幅広い留学生の迎え入れをしているか。		

#### 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」 検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

#### 3. 伸長・改善に向けた取組

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取組について、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

--

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）

4. 根拠資料

項目 No.	根拠番号	根拠資料の名称

II. 検証結果（外部評価委員会記入）

総評
長所・特色<箇条書き>
課題事項<箇条書き> 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

## 自己点検・評価報告書（チェックシート）（案）

主要課題C	地域連携の強化
-------	---------

担当部局等の長	地域連携・研究センター長
---------	--------------

### I. 自己点検・評価

#### 1. 自己点検・評価結果<認定>

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

- 「A」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 全て達成済
- 「B」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画進行中
- 「C」: 満たしている／前年度の改善・向上方策: 計画検討中
- 「D」: 満たしていない／認証評価で「不適合」もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
C 1	家政系女子大学の「個性」を發揮し、他大学、小中高、企業・団体、地域社会との継続性を担保する連携活動をしているか。		
C 2	地域のニーズをトータルに受け止める仕組みを強化しているか。		

#### 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

#### 3. 伸長・改善に向けた取組

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】【努力課題】【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取組について、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

--

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）

#### 4. 根拠資料

項目 No.	根拠番号	根拠資料の名称

#### II. 検証結果（外部評価委員会記入）

総評
長所・特色<箇条書き>
課題事項<箇条書き> 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

教育の質保証チェックシート（案）  
（2021年度）

東京家政学院大学



## 教育の質保証チェックシートの記入方法

### 1. 目的

本チェックシートは、本学の教育の質を更に高めていくために作成したものです。各部局（学部・学科・研究科）で現在の状況について確認し、次につなげていって頂きたいと考えています。このことは、各部局で自己点検・評価を実施する体制の構築につながります。

なお、本チェックシートで確認できた各部局の優れている取組については、全学的に共有を行い、大学全体の教育の質の向上に役立てていきたいと考えています。

### 2. 構成

#### ①確認項目

##### 1 評価項目

認証評価基準の評価項目として設定されている「3つのポリシー」と「教育課程」において求められる基準・水準等について記載しています。

##### 2 主な説明項目

「1 評価項目」に記載されている基準・水準等について、当該基準等を満たしていることを証明するために説明が求められる内容を記載しています。

##### 3 説明のための取組事例

「2 主な説明項目」を説明するための根拠となるような取組事例を記載しています。

#### ②チェック項目

各部局の状況を確認し、必要事項を記入してください。

各部局で書いて頂く箇所は、②チェック項目になります。

本学が保証する教育の質とは、次の通りです。

「建学の精神に基づいた3つのポリシー、特に、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの目標を達成できる水準を保証できること」

担当部局（学部・学科・研究科）	
-----------------	--

### 1. 3つのポリシー

2017年4月1日の学校教育法施行規則の改正により、全ての大学等において、3つのポリシーを一貫性・整合性のあるものとして策定し、公表するものとされています。以下の確認及びチェック項目は、中央教育審議会大学分科会 大学教育部会が2016年3月31日に刊行した「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドラインを参考にして作成しています。

#### (1) 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

大学、学部・学科・研究科の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業（修了）を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標となるものである。

#### ①確認項目

1. 評価項目	ディプロマ・ポリシーが具体的かつ明確であること
2. 主な説明項目	大学の目的（学則第1条）を踏まえて、ディプロマ・ポリシーを具体的かつ明確に策定していること 卒業生（修了生）を社会に送り出す上で、どのような能力を身につければ学位を授与するのかという方針を具体的に示していること 教育の質を担保し、授与される学位の信頼性を高めるための継続的な施策が行われていること
3. 説明のための取組事例	ディプロマ・ポリシーをウェブサイト、シラバス、ガイダンス資料などで公表している。 学修成果とは何かを明らかにすると共に、それをどの水準まで高めるかについて公表している。
4. 根拠資料・データ	公表されているディプロマ・ポリシー 教育の質を担保し、授与される学位の信頼性を高めるための施策が確認できる資料

#### ②チェック項目

1	ディプロマ・ポリシーに次の各項目に係る記述が含まれている。	
	・学生が身につけるべき資質・能力の目標となる記述となっている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	・「何ができるようになるか」に力点を置き、どのような学修成果をあげれば、卒業を認定し、学位を授与するのかが具体的に示されている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
2	・学生の進路先など、社会における顕在・潜在ニーズに係る記載が含まれている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	当該年度において、ディプロマ・ポリシーの見直しをした場合は、その内容と変更理由を記載してください。	
3	ディプロマ・ポリシーをわかりやすく解説するために、原文以外に提供している資料がありましたら、記載してください。	

4	<p>教育の質を担保し、授与される学位の信頼性を高めるために実施している取組がありましたら、その概要を記載してください。</p>
5	<p>現行のディプロマ・ポリシーについて「チェック項目1」で「いいえ」となった項目の見直し予定を記載してください。</p>

③評価結果（学長及び自己点検・評価委員会から）

総評	
課題事項	

(2) 教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)

ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針

①確認項目

1. 評価項目
カリキュラム・ポリシーが、ディプロマ・ポリシーと整合性を有していること
2. 主な説明項目
カリキュラム・ポリシーにおいて、学生や授業科目を担当する教員が分かりやすいように、①教育課程の編成の方針 ②教育課程における教育・学修方法に関する方針 ③学修成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること
能動的学修の充実等、大学教育の質的転換に向けた取組の充実を重視したカリキュラム・ポリシーになっていること
3. 説明のための取組事例
カリキュラム・ポリシーをウェブサイト、シラバス、ガイダンス資料などで公表している。
4. 根拠資料・データ
公表されているカリキュラム・ポリシー

②チェック項目

1	・カリキュラム・ポリシーにおいて、学生や授業科目を担当する教員が分かりやすいように、「①教育課程の編成の方針」「②教育課程における教育・学修方法に関する方針」「③学修成果の評価の方針」の各項目に係る記述が含まれている。	□ はい □ いいえ
	・カリキュラム・ポリシーの内容が、ディプロマ・ポリシーに定める「獲得が期待される能力」が獲得可能なことを確認できる程度の整合性を有している。	□ はい □ いいえ
	・能動的学修の充実等、大学教育の質的転換に向けた取組を重視していることが確認できる記述が含まれている。	□ はい □ いいえ
	・カリキュラム・ポリシーの内容が大学等の目的と整合性を有している。	□ はい □ いいえ
2	当該年度において、カリキュラム・ポリシーの見直しをした場合は、その内容と変更理由を記載してください。	
3	カリキュラム・ポリシーをわかりやすく解説するために、原文以外に提供している資料がありましたら、記載してください。	
4	現行のカリキュラム・ポリシーについて「チェック項目1」で「いいえ」となった項目の見直し予定を記載してください。	

③評価結果（学長及び自己点検・評価委員会から）

総評
課題事項

(3) 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

大学、学部・学科・研究科の教育理念、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の3要素」\*について、どのような成果を求めるか）を示すもの

※ (1) 知識・技能 (2) 思考力・判断力・表現力等の能力 (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

①確認項目

1. 評価項目
アドミッション・ポリシーが明確に定められていること
2. 主な説明項目
アドミッション・ポリシーにおいて、「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」を明示していること
入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示されていること
ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーと整合していること
3. 説明のための取組事例
アドミッション・ポリシーをウェブサイト、シラバス、ガイダンス資料などで公表している。
4. 根拠資料・データ
公表されているアドミッション・ポリシー

②チェック項目

1	アドミッション・ポリシーにおいて、次の各項目に「 」内の記述が含まれている。	
	・求める学生像については、「入学前に学習しておくことが期待される内容」	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	・入学者選抜の基本方針については、「入学者受入方針を具現化するためにどのような評価方法を多角的に活用し、それぞれの評価方法をどの程度の比重で扱うのか」	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	・「受け入れる学生に求める学習成果（学力の3要素）」について、どのような成果を求めるのか	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
2	当該年度において、アドミッション・ポリシーの見直しをした場合は、その内容と変更理由を記載してください。	
3	アドミッション・ポリシーをわかりやすく解説するために、原文以外に提供している資料がありましたら、記載してください。	
4	現行のアドミッション・ポリシーについて「チェック項目1」で「いいえ」となった項目の見直し予定を記載してください。	

③評価結果（学長及び自己点検・評価委員会から）

総評
課題事項

## 2. 教育課程・学修成果

ディプロマ・ポリシーを踏まえた教育課程編成、当該教育課程における学生の学修方法・学修過程の在り方等を具体的に示すこと並びに、「学生が何を身に付けたか」という観点を重視して学生の学修成果の把握・評価を行うことは教育の質を高めるためには不可欠なことです。以下の確認及びチェック項目は、次の3つの資料を参考に作成しています。

- i) 中央教育審議会大学分科会 大学教育部会が2016年3月31日に刊行した「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン
- ii) 大学改革支援・学位授与機構 質保証システムの現状と将来像に関する研究会が2017年3月31日に刊行した「教育の内部質保証に関するガイドライン」
- iii) 令和2年度(2020年度) 私立大学等改革総合支援事業調査票

### (1) 教育課程

#### ①確認項目

1. 評価項目	
教育課程の編成がディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則して体系的であり、相応しい水準であること	
2. 主な説明項目	
教育課程の編成又は授業科目が、その内容・水準が授与される学位名に相応しいものになっていること	
学位プログラムの学修目標と授業科目の到達目標が紐付けされていること	
卒業認定・学位授与に求められる体系的な教育課程に向けて、初年次教育、教養教育、専門教育、キャリア教育等の様々な観点から検討が行われていること	
学習の順次生に配慮した授業科目の年次・学期配当になっていること	
能動的学修を実施する科目を開講していること	
大学院において、学位論文の作成等に係る指導に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備していること	
3. 説明のための取組事例	
教養教育及び専門教育のバランス、必修科目・選択科目等の配当など、カリキュラム・ポリシーに基づいて授業科目が配置され、教育課程の体系的性が確保されている。	
カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー、履修モデル、科目ナンバリングなどを整備している。	
アクティブ・ラーニング型(課題解決型学習[PBL]、反転授業、ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどの要素を含む)科目を開講している。	
大学院において、研究指導や学位論文の指導体制・方法を定め、公表している。	
4. 根拠資料・データ	
体系的性が確認できる資料(カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー、履修モデル、科目ナンバリングなど)	
授業科目の開設状況が確認できる資料	
研究指導、学位論文の指導体制・方法などが確認できる資料(規程、申し合わせ等)	
国内外の学会への参加促進、他大学・産業界との連携による指導、研究倫理に関する指導などの状況が確認できる資料	

#### ②チェック項目

1	・カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー、履修モデル、科目ナンバリングなどで、教育課程の体系的性が確認できる。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	・教養教育及び専門教育のバランス、必修科目・選択科目等の配当など、カリキュラム・ポリシーに基づいて授業科目が配置され、教育課程の体系的性が確保されている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	・初年次教育やキャリア教育に関する授業科目が配置されている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ



	・アクティブ・ラーニング型（課題解決型学習 [PBL]、反転授業、ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどの要素を含む）科目を開講している。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	・大学院において、指導体制を整備すると共に、研究倫理に関する教育・指導が行われている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
2	カリキュラムの見直しなど、教育課程を充実させるために実施している取組や、今後、実施を予定している取組がある場合は、その概要を記載してください。	
3	大学院における研究指導において、次の取組が行われている場合は、その概要を記載してください。 ①複数教員による指導体制 ②中間発表会の開催 ③国内外の学会への参加促進 ④他大学や産業界との連携 など	
4	「チェック項目1」で「いいえ」となった項目の見直し予定を記載してください。	

③評価結果（学長及び自己点検・評価委員会から）

総評	
課題事項	

(2) 授業の内容・方法

①確認項目

1. 評価項目	
授業の内容・方法が、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則して、相応しい水準であること	
ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則して、適切な授業形態及び授業指導法が採用されていること	
2. 主な説明項目	
授業の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	
適切な授業形態及び学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること	
履修登録の上限設定の制度を設けていること	
3. 説明のための取組事例	
授業科目の内容が授与する学位に相応しい水準であり、適切な授業形態及び学習指導法が採用されていることを組織的にチェックしている。	
学生に対して全ての授業科目のシラバスが、刊行物の配付もしくはウェブサイトへの掲載等の方法により周知されている。	
学生の能動的な学修の充実に向けて、少人数グループワーク、集団討論、反転授業などの学修方法が導入されるように組織的に取り組んでいる。	
履修科目の登録上限の設定をしている。	
授業内容・方法を改善するために、学生による授業評価等の内容を組織的に確認し、活用している。	
4. 根拠資料・データ	
シラバス、学生便覧	
学則等のCAP制に関する規程	
授業科目の開設状況が確認できる資料	

②チェック項目

1	・授業科目の内容が、1単位につき45時間の学習を必要とする内容になっており、授与する学位に相応しい水準であることを確認している。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	・アクティブ・ラーニング、少人数教育、PBL型授業、フィールド型授業など、学習指導法の工夫が行われている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	・全科目のシラバスに、授業名、担当教員名、授業の目的・到達目標、授業形態、各回の授業内容、成績評価方法、成績評価基準、準備学習等が記載されており、ウェブサイトへの掲載等により学生に周知を図っている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	・CAP制を導入している。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	・学生による授業評価等の内容を組織的に確認し、授業改善に活用している。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
2	適切な授業形態の検討や学習指導法をより改善するために実施している取組がありましたら、その概要を記載してください。	
3	「チェック項目1」で「いいえ」となった項目の見直し予定を記載してください。	

③評価結果（学長及び自己点検・評価委員会から）

総評
課題事項

(3) ファカルティ・ディベロップメント (FD)

①確認項目

1. 評価項目
授業の内容及び方法の改善を図るためのFDを組織的に実施している。
2. 主な説明項目
教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につなげるためのFDの取組が組織的に実施されていること
3. 説明のための取組事例
教員相互による授業参観・授業評価を実施している。
授業内容・方法の改善のためのワークショップや授業検討会を実施している。
教育能力の向上や授業内容・方法の改善に必要な知識・技能を獲得するための研修会・講演会等を実施している。
4. 根拠資料・データ
教員相互による授業参観・授業評価を実施していることが確認できる資料
ワークショップや授業検討会、研修会・講演会等の開催案内

②チェック項目

1	部局(学部・学科・研究科)独自で実施しているFD活動の概要(実施内容・方法、参加者数等)を記載してください。
2	部局独自のFD活動の参加率を上げるために実施している取組がありましたら、その概要について記載してください。

③評価結果(学長、自己点検・評価委員会及び第三者委員会から)

総評
課題事項

(4) 履修指導体制・学習相談体制

①確認項目

1. 評価項目	
ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則した、適切な履修指導・支援が行われていること	
2. 主な説明項目	
学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導・助言が行われていること	
学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言・支援が行われていること	
社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること	
3. 説明のための取組事例	
履修ガイダンスを実施している。	
教員によるクラス担任制を整備している。	
ティーチング・アシスタント (TA) 等の教育支援制度を整備している。	
オフィスアワーを設定している。	
学生アンケート等の内容を組織的に確認し、活用している。	
卒業時に社会で必要とされる能力が身についているか確認している。	
4. 根拠資料・データ	
履修指導の実施状況	
学習相談の実施状況	
社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組	

②チェック項目

1	次の取組を実施している。	
	・履修ガイダンス	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	・クラス担任制	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	・ティーチング・アシスタント (TA) 等の教育支援制度	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	・オフィスアワーの設定	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	・学修成果の状況の組織的把握と対応	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	・学習計画の指導	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	・基礎学力不足の学生に対する指導・助言	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
2	履修指導体制・学習指導体制の更なる充実のために、「チェック項目1」の項目以外に実施している取組がありましたら、その概要を記載してください。	

③評価結果 (学長及び自己点検・評価委員会から)

総評
課題事項

(5) 成績評価

①確認項目

1. 評価項目	
カリキュラム・ポリシーに則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること	
2. 主な説明項目	
成績評価基準をディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則して定められている学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）と整合性をもって、組織として策定していること	
成績評価基準を学生に周知していること	
成績評価基準に則り、各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること	
3. 説明のための取組事例	
各教員による適切な成績評価を促すために、組織的な取組を実施している。	
成績評価基準をウェブサイトや学生向けの刊行物で周知している。	
成績評価の分布の点検を組織的に実施している。	
GPA を活用した成績評価を実施している。	
4. 根拠資料・データ	
成績評価基準	
学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配付資料等	
成績評価の分布表	
GPA 制度の目的と実施状況について分かる資料	

②チェック項目

1	成績評価に関する次の記述に回答してください。	
	・成績評価基準について、科目の到達目標を考慮した判断基準を組織として定めている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	・学生に対して、成績評価基準を刊行物の配付、ウェブサイトへの掲載等の方法により周知している。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	・学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）に照らして成績評価の分布の点検を組織的に実施している。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	・個人指導等が中心となる科目では、成績評価の客観性を担保するための措置を実施している。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
2	・成績評価基準とは別に、成績評価分布のガイドラインの策定や答案の返却、模範解答あるいは採点基準の提示等を行っている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	GPA を活用している取組（卒業判定、進級判定など）がありましたら、その概要を記載してください。	
3	成績評価について「チェック項目1」で「いいえ」となった項目の見直し予定を記載してください。	

③評価結果（学長及び自己点検・評価委員会から）

総評
課題事項

(6) 卒業・修了判定

①確認項目

1. 評価項目	
大学等の目的及びディプロマ・ポリシーに則して、公正な卒業（修了）判定が実施されていること	
2. 主な説明項目	
大学等の目的及びディプロマ・ポリシーに則して、卒業（修了）要件を組織的に策定していること	
策定した卒業（修了）要件を学生に周知していること	
卒業（修了）認定を、卒業（修了）要件に則して組織的に実施していること	
卒業（修了）に際して、ディプロマ・サプリメント（学位証書補足資料）を用意していること	
3. 説明のための取組事例	
卒業（修了）要件を履修の手引き等の刊行物で学生に周知すると共に、定期的に組織的な点検等の取組を実施している。	
卒業（修了）要件に基づき、卒業（修了）認定を教授会（大学院研究科会議）で組織的に実施している。	
卒業（修了）時に、ディプロマ・サプリメントを導入している。	
4. 根拠資料・データ	
卒業（修了）要件を定めた規定	
卒業（修了）判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料	
卒業（修了）要件を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配付資料、ウェブサイトなど	
審査に合格した学生の学位論文等	

②チェック項目

1	卒業（修了）判定に関する次の記述に回答してください。	
	・卒業（修了）要件が組織的に策定され、大学設置基準等が定める要件と整合性を組織として定めている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	・学生に対して、卒業（修了）要件を刊行物の配付、ウェブサイトへの掲載等の方法により周知している。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	・卒業（修了）要件の審査が定められた手順どおりに実施されている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	・学位論文の審査が定められた手順通りに実施されている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
2	卒業（修了）判定の客観性を担保するために実施している取組がありましたら、その概要を記載してください。（ex. ディプロマ・サプリメントの導入）	
3	卒業判定について「チェック項目1」で「いいえ」となった項目の見直し予定を記載してください。	

③評価結果（学長及び自己点検・評価委員会から）

総評
----



課題事項

(7) 学修成果

①確認項目

1. 評価項目	
大学等の目的及びディプロマ・ポリシーに則して、適切な学修成果が得られていること	
2. 主な説明項目	
標準修業年限内の卒業（修了）、資格取得等の状況が、大学等の目的及びディプロマ・ポリシーに則した状況であること	
就職及び進学の様子が、大学等の目的及びディプロマ・ポリシーに則した状況であること	
卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及びディプロマ・ポリシーに則した学修効果が得られていること	
学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしていること	
3. 説明のための取組事例	
標準修業年限内の卒業（修了）率、資格取得の状況、進路状況等を、学部（学科）・研究科として組織的に点検し、学修成果の把握・評価に取り組んでいる。	
学生アンケートに基づき、学修行動や学修成果の把握・評価を行っている。	
学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導の改善のために活用している。	
4. 根拠資料・データ	
標準修業年限内の卒業（修了）率	
資格の取得者数が確認できる資料、各コンペティション等の受賞状況が確認できる資料	
就職率	
学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料	

②チェック項目

1	学修成果に関する次の記述に回答してください。	
	・標準修業年限内の卒業（修了）率、資格取得の状況、進路状況等を、学部（学科）・研究科として確認し、学修成果の把握・評価に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	・就職率（進学率）の状況、主な就職先（進学先）を確認し、学修成果の把握・評価に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	・卒業（修了）時の学生アンケートにより、卒業（修了）時点の学生に対し、大学等の目的及びディプロマ・ポリシーに則した学修成果が得られていることを確認している。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	・学修成果を可視化している。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
2	・学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導の改善のために活用している。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	学部（学科）・研究科独自に行っているアンケート調査等、学修成果把握のために実施している取組がありましたら、その概要を記載してください。	
3	資格の取得者数、各コンペティション等の受賞状況について記載してください。	

4	学修成果について「チェック項目1」で「いいえ」となった項目の見直し予定を記載してください。

③評価結果（学長及び自己点検・評価委員会から）

総評
課題事項

## 2021年度 シラバス点検・評価シート（案）

## 1. 目的

本シラバス点検・評価シートは、教員それぞれが、シラバスを作成する際に、本年度実施した授業の到達目標の達成状況や学修成果の状況などの振り返って頂きたいこと、そして、次年度のシラバスを計画する際に確認すべきことなどをまとめたものです。「東京家政学院大学シラバス作成ガイドライン」及び「シラバス第三者チェック表」と一緒に、次年度のシラバスを検討する際の参考資料となるように作成しています。1科目1科目の授業科目の教育の質を保証することが大学全体の教育の質を保証することにつながります。本シートを有効活用して頂きたい、お願い致します。

なお、シラバスについては、大学設置基準第25条の2(成績評価基準等の明示等)に「大学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする」「大学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする」と定められています。又、学校教育法施行規則第172条の2に「授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関することを社会へ公表すること」も義務づけられています。

大学全体で教育の質を保証する取組を推進していきましょう。

## 2. 構成

## ①点検確認項目

本年度実施した授業科目について振り返って頂きたい項目です。

## ②チェック項目

「①点検確認項目」を踏まえて、次年度のシラバスを計画する際にチェックして頂きたい項目です。

## ③評価結果

学長及び自己点検・評価委員会からの評価結果になります。

先生方に書いて頂く箇所は、①点検確認項目及び②チェック項目になります。

科目名		教員名	
-----	--	-----	--

①点検確認項目（今年度 実施した授業科目について）

1	次の項目を確認している場合には、□にレ点をつけてください。
	<input type="checkbox"/> 到達目標の達成状況
	<input type="checkbox"/> 成績分布状況
	<input type="checkbox"/> 学修成果の状況
	<input type="checkbox"/> 学生による授業評価アンケート
2	点検確認項目 1 以外に、今年度 実施した授業科目で確認した項目がありましたら記載してください。

②チェック項目（次年度のシラバス作成するに際して）

3	点検確認項目 1 及び 2 を踏まえて、次年度のシラバスで変更した箇所を記載してください。
4	変更した理由を記載してください。 (もし変更箇所がない場合には、変更しない理由を記載してください。)
5	次年度のシラバスを作成する上で、特に、重視した箇所を記載してください。

③評価結果（学長及び自己点検・評価委員会から）

総評
課題事項

## 2021年度 個人活動報告書（案）

## 1. 目的

大学が自律的な組織として、その使命や目的を実現するために、教育や研究などをつかさどる教員が自らの活動を継続的に点検し、絶えず改善・向上に取り組む姿勢が大切である。

そこで、大学組織を構成している教員一人一人に対して、教育、研究、大学運営、社会貢献の4項目の活動について意識して取り組んでもらうための点検確認項目を取りまとめたものが本個人活動報告書である。

本個人活動報告書の各項目の視点は次の通りである。

- ・教 育：授業計画とその運営、学生への支援、学習資源、教育改善
- ・研 究：研究計画、研究成果、研究指導
- ・大学運営：全学的な貢献、所属する部局（学部・学科・研究科）への貢献
- ・社会貢献：地域連携、公開講座、出張授業、学会活動

教員それぞれが、1年間の自身の活動を本個人活動報告書の作成を通して振り返りながらPDCAを回すことで各活動の更なるレベルアップを図って頂きたい。そのことが、本学の内部質保証につながると考えている。

なお、本学が求める教員像（案）を次のように定めたい。

<本学が求める教員像（案）>

- ・本学院の建学の精神と教育の目的を深く理解し、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの3つの方針の実現に貢献できる教員
- ・常に教育研究水準の向上に努め、教育研究基盤の充実と組織運営の発展に寄与できる教員
- ・学生の人格を尊重し、学生の成長を支援できる教員

## 2. 構成

## ①点検確認項目

「教育」「研究」「大学運営」「社会貢献」の4つの活動状況について記載してください。

## ②コメント

学部長及び学科長からのコメントです。次年度の活動の参考にしてください。

先生方に書いて頂く項目は、「①点検確認項目」になります。

所属	該当する学部・学科に○印をつけてください。		職位	該当する職位に○印をつけてください。	
	現代生活 人間栄養	学部 現代家政 生活デザイン 食物 児童 人間栄養		学科	教授 准教授 講師 助教
			氏名		

①点検確認項目

[教育活動]

1	授業計画とその運営で配慮したことがありましたら、その概要を記載してください。 (特に無ければ空欄でも構いません)
2	学生への支援活動として実施したことがありましたら、その概要を記載してください。 (特に無ければ空欄でも構いません)
3	学習(教育)資源として新たに作成したものがありましたら、その項目と内容を記載してください。 (特に無ければ空欄でも構いません)
4	教育改善として実施した取組がありましたら、その概要を記載してください。 (特に無ければ空欄でも構いません)

[研究活動]

1	今年度の研究計画について、その概要を記載してください。
2	今年度の研究成果について記載してください。(研究成果については、毎年提出している個人調書[履歴書・教育研究業績書等]がありますので、研究成果の概要について簡潔に記載してください)
3	研究指導(大学院、卒業研究、ゼミナールなど)の状況について記載してください。(研究指導を担当していない場合は、空欄にしてください)

[大学運営活動]

1	全学的な貢献活動について、その項目と概要を記載してください。(助教の先生方は空欄でも構いません)
2	所属する部局(学部・学科・研究科)での貢献活動について、その項目と概要を記載してください。

[社会貢献活動]

1	今年度行った地域連携活動(公開講座や出張授業などを含む)がありましたら、その項目と概要を記載してください。(特に無ければ空欄でも構いません)
2	今年度行った学会活動がありましたら、その項目と概要を記載してください。(特に無ければ空欄でも構いません)

上記の[教育][研究][大学運営][社会貢献]以外に実施した活動がありましたらその項目と概要を記載してください。

--

今年度の各種の活動を振り返って、ご自身の大学教員としての活動を評価してください。

--

②学部長及び学科長からのコメント(学長及び自己点検・評価委員会からコメントが入る場合もあります)

--



## 東京家政学院大学 自己点検・評価委員会規程の一部改正案（新旧対照表）

改正案	現行
<p>(目的)</p> <p>第1条 この規程は、東京家政学院大学学則第2条第1項、東京家政学院大学大学院学則第2条第1項の規定に基づき、東京家政学院大学及び東京家政学院大学大学院（以下「<b>本学</b>」という。）に、東京家政学院大学自己点検・評価委員会（以下「<b>委員会</b>」という。）を置き、<b>第3条</b>に規定する業務を遂行する。</p> <p>(任務)</p> <p>第2条 <b>本学</b>の教育・研究等に携わる<b>学部・学科、研究科、各種センター等</b>及び事務組織は、恒常的に自己点検・評価を実施する。</p> <p>2 <b>学部・学科、研究科、各種センター</b>及び事務組織の<b>長</b>は、<b>各組織</b>の自己点検・評価の責任を有するもの（以下「自己点検・評価実施責任者」という。）とする。</p> <p>3 自己点検・評価実施責任者は、自己点検・評価委員会の業務を補佐する。</p> <p>(委員会の業務)</p> <p>第3条 委員会は、第1条に基づき、次の自己点検・評価の業務を行う。</p> <p>(1) 自己点検・評価の方針、内部質保証の方針・手続き、点検・評価項目及び評価指標の設定</p> <p>(2) 自己点検・評価の実施</p> <p>(3) 自己点検・評価報告書の作成及び公表</p> <p>(4) 教学データを中心とした IR (Institutional Research) に関する事項</p> <p>(5) 認証評価に関わる事項</p> <p>(6) その他 委員会が必要と認める事項</p> <p>(自己点検・評価項目)</p> <p>第4条 自己点検・評価は、<b>全学レベル、組織レベル、個人レベル</b>と階層ごとに次のように実施する。</p> <p>(1) 全学レベルでは、公益財団法人日本高等教育評価機構における「評価基準」及び本学の中期計画に</p>	<p>(目的)</p> <p>第1条 <del>学校法人東京家政学院</del>（以下「<b>学院</b>」という。）自己点検・評価運営委員会規則（以下「<b>学院規則</b>」という。）<del>第7条第1項第1号</del>の規定に基づき、東京家政学院大学（以下「<b>大学</b>」という。）と東京家政学院大学大学院（以下「<b>大学院</b>」という。）に、東京家政学院大学自己点検・評価委員会（以下「<b>委員会</b>」という。）を置き、同条第2項第1号に規定する業務を遂行する。</p> <p>(任務)</p> <p>第2条 大学・大学院の教育・研究等に関する各種委員会（以下「<b>各種委員会</b>」という。）及び事務組織（各グループ等）は、恒常的に自己点検・評価を実施する。</p> <p>2 各種委員会及び事務組織（各グループ等）の責任者（委員長及びグループ課長等）は、自己点検・評価の責任を有するものとする（以下「自己点検・評価実施責任者」という。）。</p> <p>3 自己点検・評価実施責任者は、自己点検・評価委員会の業務を補佐する。</p> <p>(委員会の業務)</p> <p>第3条 委員会は、第1条に基づき、次の自己点検・評価業務を行う。</p> <p>(1) 自己点検・評価の実施及び結果の公表に関する事項</p> <p>(2) 認証評価（文部科学大臣の認証を受けた者による評価）に関する事項</p> <p>(3) 教員人事に関する事項</p> <p>(4) 管理運営・財務・教育研究環境に関する事項</p> <p>(5) 将来計画に関する事項</p> <p>(6) その他評価に関する事項</p> <p>2 前項に関する事項は、学院規則第7条第2項第3号の規定に基づき、学院事務局自己点検・評価委員会から、要請があった場合には、関係資料を提示するものとする。</p> <p>(自己点検・評価項目)</p> <p>第4条 自己点検・評価項目は、公益財団法人日本高等教育評価機構の大学評価基準のとおりとする。</p> <p><b>(新設)</b></p>

沿った項目に従って実施する。

- (2) 組織レベルでは、学部・学科・研究科の教育プログラムにおける三つのポリシーを踏まえた項目に従って実施する。
- (3) 個人レベルでは、各教員の授業計画（シラバス）及び個人活動報告書に従って実施する。

(組織)

第5条 委員会は、次の者をもって組織する。

- (1) 副学長
- (2) 学部長
- (3) 研究科長
- (4) 附属図書館長
- (5) 学科長

2 学長は、前項に掲げる者のほか、必要と認める者を加えることができる。

3 前項による委員の任期等は、必要に応じて学長が定める。

4 学長は、陪席者として出席することができる。

(委員長)

第6条 委員会に委員長を置き、学長が指名する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

(会議)

第7条 委員会は、委員の3分の2以上の出席により成立する。

2 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求め、その意見を聴くことができる。

(委員会の構成)

第5条 委員会は、次の者をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学部長
- (4) 研究科長
- (5) 附属図書館長
- (6) 生活文化博物館長
- (7) 情報処理センター長
- (8) 保健管理（町田）センター長
- (9) 保健管理（千代田三番町）センター長
- (10) 学生支援（町田）センター長
- (11) 学生支援（千代田三番町）センター長
- (12) 国際交流センター長
- (13) 地域連携・研究（町田）センター長
- (14) 地域連携・研究（千代田三番町）センター長
- (15) 学科長
- (16) 大学事務局長
- (17) アドミッションセンター長
- (18) グループ課長

2 委員会には、前項に掲げる者のほか、必要と認める者を加えることができる。

(新設)

(新設)

(委員長)

第6条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

(委員以外の者の出席者)

第7条 委員会は、委員以外の者に出席を求め、その意見を聞くことができる。

<p>(部会の設置)</p> <p>第8条 委員会に自己点検・評価に関する具体的事項を検討するため並びに具体的な作業を実施するため、必要に応じて専門部会並びに作業部会をそれぞれ置くことができる。</p> <p>2 専門部会並びに作業部会の構成、委員の任期等は、必要に応じて委員会が定める。</p> <p>3 部会に部会長を置き、委員長が指名する。</p>	<p>(専門委員会)</p> <p>第8条 委員会に自己点検・評価に関する具体的事項を検討するため、必要に応じて専門委員会を置くことができる。</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p>
<p>(自己点検・評価の実施及び報告)</p> <p>第9条 委員会は、各年度の自己点検・評価方針に基づき、自己点検・評価を実施する。</p> <p>2 委員会は、実施の結果を報告書（以下「自己評価報告書」という。）に取りまとめる。ただし、認証評価を受審する年度は、第三者評価の「自己点検評価書」をもって代える。</p>	<p>(自己点検・評価及び報告の実施)</p> <p>第9条 大学・大学院の各組織と構成員は、教育・研究活動とその支援活動を不断に自己点検・評価し、その活動の改善と活性化に努力しなければならない。</p> <p>2 自己点検・評価委員会は、原則として各年度に自己点検・評価の結果を自己点検・評価項目に則り報告書（以下「自己評価報告書」という。）に取りまとめるものとする。ただし、認証評価を受審する年度は、第三者評価の「自己点検評価書」をもって代えるものとする。</p>
<p>(削除)</p>	<p>(自己評価報告書作成委員会)</p> <p>第10条 自己評価報告書を作成するため、委員会の下に、自己評価報告書作成委員会（以下「作成委員会」という。）を置く。</p> <p>2 作成委員会の委員は、学長が委嘱し、任期は当該自己評価が終了するまでとする。</p> <p>3 作成委員会に委員長を置き、学長が指名する。</p> <p>(新設)</p>
<p>(自己点検・評価結果の学長への報告)</p> <p>第10条 委員会は、自己点検・評価結果を学長に報告する。</p> <p>2 学長は自己点検・評価の結果を学外の有識者等で構成される外部評価委員会に意見を求めることができる。</p> <p>3 外部評価委員会の構成、委員の任期等は別に定める。</p>	
<p>(自己点検・評価結果の承認)</p> <p>第11条 委員長は、学長からの意見及び外部評価委員会からの意見を含めて自己点検・評価報告書として取りまとめ、部局長会議に承認を得る。</p>	<p>(自己点検・評価結果の報告)</p> <p>第11条 委員会は、自己評価報告書を、学院自己点検・評価委員会に提出する。</p>
<p>(自己点検・評価結果の公表)</p> <p>第12条 委員長は、学長の承認を得た上で、自己点検・</p>	<p>(自己点検・評価結果の公表)</p> <p>第12条 委員長は、前条に定める学院自己点検・評価</p>

<p>評価報告書を本学教職員に公表するものとする。また、特に必要と認めるときは、学外の諸機関に公表できるものとする。</p> <p>(認証評価)</p> <p>第13条 本学は学校教育法第109条第2項の規定に基づき、文部科学大臣の認証を受けた者(認証評価機関)による認証評価を受ける。</p> <p>(自己点検・評価結果の活用)</p> <p>第14条 本学は自己点検・評価結果に基づき、教育研究活動等に係る改善に努めるものとする。</p> <p>(事務)</p> <p>第15条 委員会の事務は、教育企画室において処理する。</p> <p>(改廃)</p> <p>第16条 この規程の改廃は、自己点検・評価委員会の議を経て、学長が定める。</p> <p>(雑則)</p> <p>第17条 この規程に定めるもののほか、この規程の運営のため必要な事項は、別に定めることができる。</p> <p>附 則</p> <p>1 この規則は、平成19年11月15日から施行する。</p> <p>2 「東京家政学院大学家政学部自己評価委員会規則」、「東京家政学院大学人文学部自己評価委員会規則」、「東京家政学院大学大学院人間生活学研究科自己評価委員会規則」及び「東京家政学院大学・東京家政学院大学大学院・東京家政学院短期大学自己評価委員会規則」は、廃止する。</p> <p>附 則</p> <p>この規則は、平成22年4月1日から施行する。</p> <p>附 則</p> <p>この規則は、平成23年4月1日から施行する。</p> <p>附 則</p> <p>この規則は、平成24年4月1日から施行する。</p> <p>附 則</p> <p>この東京家政学院大学・東京家政学院大学大学院自</p>	<p>委員会に提出した報告書を本学教職員に公表できるものとする。また特に必要と認めるときは、学外の諸機関に公表できるものとする。</p> <p>(外部評価)</p> <p>第13条 大学・大学院は、学校教育法第109条第2項の規定に基づき、文部科学大臣の認証を受けた者(認証評価機関)による認証評価を受けるものとする。</p> <p>(自己点検・評価結果の活用)</p> <p>第14条 大学・大学院は、自己点検・評価結果に基づき、教育研究活動等に係る改善に努めるものとする。</p> <p>(雑則)</p> <p>第15条 この規程に定めるもののほか、この規程の運営のため必要な事項は、別に定めることができる。</p> <p>(事務)</p> <p>第16条 委員会の事務は、大学事務局において処理する。</p> <p>(新設)</p> <p>附 則</p> <p>1 この規則は、平成19年11月15日から施行する。</p> <p>2 「東京家政学院大学家政学部自己評価委員会規則」、「東京家政学院大学人文学部自己評価委員会規則」、「東京家政学院大学大学院人間生活学研究科自己評価委員会規則」及び「東京家政学院大学・東京家政学院大学大学院・東京家政学院短期大学自己評価委員会規則」は、廃止する。</p> <p>附 則</p> <p>この規則は、平成22年4月1日から施行する。</p> <p>附 則</p> <p>この規則は、平成23年4月1日から施行する。</p> <p>附 則</p> <p>この規則は、平成24年4月1日から施行する。</p> <p>附 則</p> <p>この東京家政学院大学・東京家政学院大学大学院自</p>
--	--

<p>己点検・評価委員会規則は、東京家政学院大学・東京家政学院大学大学院自己点検・評価委員会規程に改正し、平成27年4月1日から施行する。</p> <p>附 則</p> <p>この規程は、平成28年4月1日から施行する。</p> <p>附 則</p> <p>この東京家政学院大学・東京家政学院大学大学院自己点検・評価委員会規程は、東京家政学院大学自己点検・評価委員会規程に改正し、平成30年4月1日から施行する。</p> <p>附 則</p> <p>この規程は、令和3年12月2日から施行する。</p>	<p>己点検・評価委員会規則は、東京家政学院大学・東京家政学院大学大学院自己点検・評価委員会規程に改正し、平成27年4月1日から施行する。</p> <p>附 則</p> <p>この規程は、平成28年4月1日から施行する。</p> <p>附 則</p> <p>この東京家政学院大学・東京家政学院大学大学院自己点検・評価委員会規程は、東京家政学院大学自己点検・評価委員会規程に改正し、平成30年4月1日から施行する。</p>
---	--

## 東京家政学院大学 外部評価委員会規程（案）

## （設置）

第1条 東京家政学院大学 自己点検・評価委員会規程第10条第3項に基づき、東京家政学院大学 外部評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

## （目的）

第2条 委員会は、本学における内部質保証の有効性及び自己点検・評価活動の客観性・公平性を担保し、教育研究水準の更なる向上を図るため、学外の有識者等による評価を行い、その意見を内部質保証の推進及び自己点検・評価に反映させることを目的とする。

## （審議事項）

第3条 委員会が行う大学評価は、次の通りとする。

- （1）本学が行う内部質保証の有効性に関する評価
- （2）本学が行う自己点検・評価の客観性及び妥当性に関する評価
- （3）その他、学長が必要とする事項に関する評価

2 委員会は、前各号に基づいて行った自己点検・評価項目に対する検証結果及び改善を求める提言事項を報告書としてまとめ、学長に提出するものとする。

## （組織）

第4条 委員会は、次の者をもって組織する。

- （1）学長
- （2）外部有識者
- （3）常務理事
- （4）副学長
- （5）学長が必要と認めた者

2 前項第2号の委員は、本学の設置目的について理解のある学外の有識者及び学識経験者から学長が任命する。

3 第1項第2号の委員は2名以上として、任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

## （委員長）

第5条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、学長をもって充てる。
- 3 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 4 委員長の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

## （委員会の運営）

第6条 委員会は委員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は出席者の過半数の同意をもって決する。

## （守秘義務）

第7条 委員は、この規程に基づく評価を行う際に職務上知り得た事項のうち、秘すべきとされた事項は、他に漏らしてはならない。

(事務)

第8条 委員会の事務は、教育企画室において処理する。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、自己点検・評価委員会の議を経て、学長が定める。

(雑則)

第10条 この規定に定めるもののほか、この規程の運営のため必要な事項は、別に定めることができる。

附 則

- 1 この規程は、令和3年12月2日よりこれを施行する。
- 2 この規程の施行の際、最初に委嘱される第4条第1項第3号の委員の任期は、第4条第3項の規定にかかわらず、令和5年3月31日までとする。

	項目	担当
【共通基礎】	認証評価共通基礎データ	
(様式1)	教育研究組織	教育企画室
(様式1)	教員組織	総務室
(様式1)	施設・設備等	施設室、図書館
(様式2)	入試状況等	アドミッションオフィス
【表F-1】	理事長名、学長名等	総務室
【表F-2】	附属校及び併設校、附属機関の概要	総務室
【表F-3】	外部評価の実施概要	教育企画室
【表2-1】	学部、学科別在籍者数（過去5年間）	学務室
【表2-2】	研究科、専攻別在籍者数（過去3年間）	学務室
【表2-3】	学部、学科別退学者数及び留年者数の推移（過去3年間）	学務室
【表2-4】	就職相談室等の状況	キャリア支援室
【表2-5】	就職の状況（過去3年間）	キャリア支援室
【表2-6】	卒業後の進路先の状況（前年度実績）	キャリア支援室
【表2-7】	大学独自の奨学金給付貸与状況（授業料免除制度）（前年度実績）	学務室
【表2-8】	学生の課外活動への支援状況（前年度実績）	学務室
【表2-9】	学生相談室、保健室等の状況	学務室（保健管理センター）
【表2-10】	附属施設の概要（図書館除く）	総務室、施設室
【表2-11】	図書館の開館状況	情報化推進室（図書館）
【表2-12】	情報センター等の状況	情報化推進室（情報処理センター）
【表3-1】	授業科目の概要	学務室
【表3-2】	成績評価基準	学務室
【表3-3】	修得単位状況（前年度実績）	学務室
【表3-4】	年間履修登録単位数の上限と進級、卒業（修了）要件（単位数）	学務室
【表4-1】	学部、学科の開設授業科目における専兼比率	学務室
【表4-2】	職員数と職員構成（正職員嘱託パート派遣別、男女別、年齢別）	総務室
【表5-1】	財務情報の公表（前年度実績）	財務室
【表5-2】	事業活動収支計算書関係比率（法人全体のもの）	財務室
【表5-3】	事業活動収支計算書関係比率（大学単独）	財務室
【表5-4】	貸借対照表関係比率（法人全体のもの）	財務室
【表5-5】	要積立額に対する金融資産の状況（法人全体のもの）（過去5年間）	財務室